鎌倉市教育委員会　令和元年８月臨時会会議録

〇日時　　令和元年（2019 年）８月６日（火）
　　９時 30 分開会　15 時 07 分閉会

〇場所　　鎌倉市役所本庁舎　全員協議会室

〇出席委員　　安良岡教育長、齋藤委員、山田委員、下平委員、朝比奈委員

〇傍聴者　　64人

〇本日審議を行った案件
日程１　協議事項
　令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書の選定について

日程２　議案第 17 号
　令和２年度（2020 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

安良岡教育長
　始めに連絡をさせていただきたい。本日、多くの方に傍聴に参加いただいている。入退出については、休憩時間にお願いをしたい。協議の進行中の入退出については、ご遠慮いただければと思う。ただ本日は、九州に台風が直撃しており、この台風の影響で関東地方も大変暑い日になるという予報がある。空調を入れているが、壁側からしか出ないので、多くの方に詰めて座っていただいており、ひょっとすると体調を悪くされる方もいるかと思う。協議の途中であっても、体調がおかしいという方があれば、手を挙げていただければ、その時点ですぐ別の部屋に移動していただいて休んでいただくような対応を取りたいと思う。なお、手を挙げていただいても傍聴の方は発言ができないので、挙手は体調が悪いという意思表示のみでお願いしたい。
　それでは、定足数に達したので委員会は成立した。これより８月臨時会を開会する。本日の会議録署名委員を朝比奈委員にお願いする。本日の議事日程はお手元に配付したとおりである。本日は「令和２年度(2020 年度)使用教科用図書の採択」について審議をお願いする。なお、小学校使用教科用図書については文部科学省から「2020 年度（令和２年度）使用教科書の採択事務処理について」の通知があり、これにより全ての教科書について新たに採択を行うこととされているので、これまでと同様に、始めに協議事項として各種目ごとに選定について協議をお願いしたいと思う。その結果を踏まえて、議案第 17 号において採択についての審議をお願いしたいと思うので、よろしくお願いする。

１　協議事項　令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書の選定について

安良岡教育長

日程の１協議事項「令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書の選定について」を議題とする。事務局から説明をお願いする。

教育指導課長

協議事項「令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書の選定について」説明する。議案集は１ページ、また別冊の「令和２年度（2020 年度）使用教科用図書調査研究報告書(小学校)」を参照願いたい。

「令和２年度（2020 年度）使用小学校教科書用図書の採択」にあたり、検討委員会より報告のあった「令和２年度（2020 年度）使用教科用図書調査研究報告書(小学校)」をもとに、教科用図書の選定についてご協議をしていただくこととなる。それに先立ち、この報告書の作成までの経過についてご説明する。

本年４月の教育委員会で、「平成 32 年度使用教科用図書の採択方針」を議決していただいた。その採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を５月に設置した。第１回検討委員会を５月７日に開催し、教育委員会が採択をするにあたって、参考となる資料を作成することを安良岡教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では報告書を作成するにあたり、種目ごとに調査員を置き、依頼内容にもとづき調査員に教科用図書見本本の調査研究の指示をした。調査委員会は第１回を５月 14 日に開催し調査活動に入った。更に６月５日と６月 26 日の計３回開催し調査資料を作成した。この調査資料をもとに検討委員会を７月 10 日と７月 22 日に開催し、内容の検討に入ると共に、総合評価について協議し検討結果として報告書をまとめていただいた。そして７月 30 日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から報告を受け、教育委員の皆さまへお届けした。以上が経過である。

続いて報告書の説明をする。お手元の「令和２年度（2020 年度）使用教科用図書調査研究報告書(小学校)」の１ページを参照願いたい。左上に種目が示されている。また表については左の項目から発行者番号、発行者略称、書名、検討結果、総合評価となっており、発行者番号、発行者略称、書名は文部科学省から送付された小学校用教科書目録に示されたものになる。検討委員会で協議した内容を発行者ごとにその特徴を記述したものを総合評価に記述し、検討結果に鎌倉の児童にふさわしいと検討委員会で判断した教科書を〇(一重丸)、鎌倉の児童によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書を◎(二重丸)としている。この形式で 13 種目の教科書について報告がされている。以上で報告書の作成経過と報告書についての説明を終わる。

本日は小学校用及び中学校用の教科用図書の採択を行うが、小学校用教科用図書について一種目ずつご協議をいただき、鎌倉の児童にとって最もふさわしいものを選定いただくようお願いする。なお種目ごとの担当指導主事より、協議の冒頭に報告書の説明をさせていただく。また協議における詳細内容の質疑等についても発言をさせていただくことをご了承いただきたい。

安良岡教育長

ただいま事務局から、教科用図書採択検討委員会からの調査報告書についてのその経過と内容について説明があった。各種目についての説明を、この後担当指導主事が説明をするとのことであるが、何か質問があればお願いする。

（質問・意見）

特になし。

安良岡教育長

それでは協議に入るが、協議に先立ち協議の進め方についてお諮りをしたいと思う。本日の進め方としては、教科用図書採択検討委員会から報告があった、「令和２年度（2020年度）使用教科用図書　調査研究報告書」に記載されている13種目を、種目ごとに担当指導主事より調査研究報告書の説明を受け、その検討結果、あるいは総合評価を踏まえ一種目ごとにどの教科書が鎌倉の児童によりふさわしいかご意見をいただきながら協議を進め、最終的に発行者を一つに絞っていくこととしたいと思う。次に種目の協議順についてであるが、例年だと報告書の順番で国語から行っているところだが、２年前に採択した特別の教科道徳と、今回新しく教科となる外国語英語の教科書については、これを先に協議を行いたいと思う。その後は調査報告書の順番で協議を行いたいと思うが、そのような順番で協議を行うということでよいか。

（質問・意見）

特になし。

安良岡教育長

それではまず調査報告書の16、17ページにある道徳、次に14、15ページの英語という順番で協議をすることとしたいと思う。今年度も令和２年度から使用する教科書については、この教科書採択に向けて教育委員の皆さんには事前に事務局から教科用図書の見本本、調査委員会の調査資料、教科用図書採択検討委員会の教科用図書調査研究報告書等の資料を事前にお配りして比較検討をこれまでお願いをしてきた。本日は教育委員にこれまで比較検討していただいた各教科書について、種目ごとに感想あるいはご意見を出していただきたいと思う。それではまず始めに、16、17ページにある道徳からお願いをしたいと思うので、道徳について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

道徳について説明する。資料は16、17ページを参照いただきたい。検討委員会で道徳八者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、教育出版、光村図書の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。また３者の中でも特に光村図書へのご意見が多く、検討委員として１番目の推薦として◎(二重丸)をつけてある。

まず光村図書について説明する。教科書全体を通して人権に配慮し、人種、性別、身体的特徴など多様性のある教材が採用されており、特に公正公平の教材の中では現代的な人権に

もとづいた話が多く、児童の人権に対する理解を深められるよう工夫されている。また、児童に疑問を投げかけるような教材で、漫画やイラスト、写真のみのページなど表現が様々であり児童の多様な考えを引き出し、正答を求めることなく安心して多面的・多角的な見方で話し合うことができるよう工夫されている。

続いて東京書籍について説明する。３年生以上の各教材に二つの発問が提示されており、一つ目は作品や内容項目につながる発問、二つ目は自分ごととして考えられる発問になっていて、自己を見つめ物事を多面的・多角的に捉えることができる工夫がなされている。

最後に教育出版について説明する。実在の人物やその偉業を題材にした教材が多く、児童の興味や関心を引き共感を得やすくなっていることで、自分ごととして考えることができるようになっている。

以上のような総合評価となった。

（質問・意見）

下平委員

道徳の教科書に関しては、２年前に採択し、光村図書を現在使用しているが、実際に学校現場で使ってくださっている先生方たちの声で、何かご意見があったら伺いたいと思う。

教育指導課指導主事

道徳の教科書について、採択１年目については戸惑いながら使っている先生も多かったのだが、教材研究をしていただき、今では他の教科書と同じように使われている。また資料としてワークシートや挿絵があり、そちらを活用して使われているということで、非常に使い勝手がよいと聞いている。

下平委員

光村図書を採択した時に、他の出版社と比べると読み物のボリュームがかなり多くて、その点がどうかというような声もあったのだが、今回教科書サイズも大きくなって、字が少し大きくなって見やすい工夫などもさらになされていると思った。先程の報告の中にもあったが、本当に世界の子どもたちの写真とかイラストなども取り入れられているし、世界人権宣言についても取り上げられていて、その点も非常に好感が持てたと思う。そして非常にバラエティーのある構成になっており、挨拶、感謝、思いやり、そして友達と仲良くすることの大切さ、存在の尊さなど、もちろん他の出版社もそれぞれ取り上げているのだが、非常に多様的な視点から、それらについて考えられるように作られていると思う。

全体的に、考えよう、皆で話し会おう、さらにつなげて生徒同士が考えられて広げられるような構成になっていると思った。確かに盛りたくさんの読み物があって、その点はさすがだと思うし、またそれが多すぎないかという心配があったのだが、さっき現場の声で、先生方が上手に活用してくださっているということだったので、そういうことで光村図書が今後も引き続き教科書としてふさわしいと感じているところである。

ただ本当に２年の間なのだが各者それぞれに工夫を加えて下さっていて、あらためて資料も読んだが、全て工夫が加えられた内容になっていると感じた。あかつきでは道徳ノートな

どの書き方が非常に活用できると思ったし、東京書籍の説明もあったが、こちらも話し合いの約束事が明確に示されていたり、まとめのカードなども活用しやすく作られていると感じた。教育出版もマナーだとか生命尊重などに関して非常に丁寧に扱っていたし、学びの気付きと記録などがしっかりとつけられるような工夫になっていた。教育出版は一冊ずつがちょっと薄いという意味では子どもたちには持ち運びはしやすいかと感じたところである。

それぞれ本当に工夫があり、どれも遜色のない作りになっていると思うが、光村図書を継続して採択したいという意見だが、皆さんいかがか。

齋藤委員

私も全ての教科書を読んで、そして自分がもし教えるとなったらとか、子どもはどういう考えを持つかというようなことを視点に考えてきた。

まず、東京書籍は低学年で親しめる教材が多いと思った。ただ高学年になっていくと読み物教材が長くなっていく。そうすると、読んで考えていくことは大事なことなのだが、クラスでの話し合いの時間はどうかというような、もちろん授業のやり方でいくらでも変えられるのだが、そんな思いを持った。

教育出版では、授業の興味関心を引くようなものがたくさん出ているということと、文章が短くて理解しやすい、また話し合いの時間をたっぷりとれる、そのうえ発問のところで、考えようとか深めよう、そしてつなげようというふうに、子どもへの問いかけがあり、児童の考えを大切に話し合わせることができ、深めることができるのではないかと思う。まとめ的な言葉が巧みに入っていると感じた。

光村図書に関しては、先程下平委員がお話しした部分、とても同じように感じるところなのだが、読みやすい題材が豊富に掲載されているということで、自分の考えを深め、まとめる、そして議論する道徳につながると感じた。演じて考えようというところがあり、表情だとか、気持ちが表す言葉をとても大事にしているということで心も育てていけるかと感じた。もう一つは、自分の考えをまとめて記入するページもあり、やはり自己を見つめ、お友達の意見も聴いて、自分なりの判断をしていくとそういう成長させられるような形をとっているということと、もう一つは学びの記録というのがあり、花びらを塗っていって自分がどんな形で学んでいったかという足跡を残すようなところがあり、子どもの心を大事にしている部分も感じられた。また、物語の読み物教材だけでなく、他の形でいろいろな投げ掛けをしながら深めていく、そういう教材、題材がたくさん入っていたので、私も光村図書がよいと思った。去年に引き続き、学校の先生方が使い勝手よくやって下さっているというところも含めて、光村図書を推したいと思う。

山田委員

既に委員がお話ししてくださったことと同感なので私は少し手短だが、やはりその３者の中で特にこの光村図書が頭の見開きのところで道徳の時間がどういうものかということに触れており、いわゆるよい生き方ができる様々な考えがあることを大切にしていく時間だということ、道徳の時間とは一体なんの時間なのだろうと子どもたちは少しつかみどころのない教科なのかと思ったので、それがはっきり明示されているのがとてもよいと思った。

朝比奈委員

私も光村図書である。国語でも権威がある会社であるし、さすが光村図書というぐらい、読み物の構成が非常に多様であった。もちろん他の出版社も何も劣るものではないのだが、どれを選ぼうかと思ったら、やはりこの検討委員の先生方のご意見もあるように光村図書だと私は思う。なにか洗練されているというか、これだったら楽しく読んで学べる。そして、先生方もこれだったら指導しやすいのではないかという思いを感じた。

安良岡教育長

私もこの報告書にあるように、授業の中で子どもたちの多様な考え方を引き出すことができる、多面的・多角的な見方で子どもたちが話し合う、そういうような材料、教材になっているのではないかと感じているところである。そして学校では、この教科書を採択して約２年間使っているのだが、今まで使っている教科書と今回のものを比較すると、使われている題材が二つか三つ変更されているのと、場所等の変更以外は全く同じということで、そういうことを考えると、先生方は使っていくのに、より一層今までの取組を活かしてさらに深めることができるのではないかという点では、私も光村図書を推薦したいと考えている。

ということで、道徳については光村図書ということになるかと思うがよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

では、道徳については光村図書を選定したいと思う。では次に英語について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

では外国語（英語）について説明する。外国語（英語）は７者の教科書を調査研究し検討した。検討の結果、東京書籍の NEW HORIZON、開隆堂の Junior Sunshine、学校図書の Junior Total English、この３者がふさわしいのではないかとの意見となった。その中でも東京書籍に関するご意見が多く、検討委員として１番目の推薦とした。では具体的な説明をする。

資料については 14、15 ページを参照いただきたい。まず東京書籍 NEW HORIZON については他教科と関連付けた題材を複数扱っており、環境食糧事情といった SDGz に関する内容について鎌倉市の取組と関連付けて学習することができる。また巻末のカード、アルファベット練習シート、別冊のピクチャーディクショナリーなど付録が充実しており、ピクチャーディクショナリーには会話活動で使用できる単語、本文の関連ページなどが示され、さまざまな場面で活用できるようになっている。

続いて開隆堂 Junior Sunshine については、カードゲーム、ジェスチャーゲームなど活動のバリエーションが多く、また会話活動に状況設定がされており、児童が英語で伝えたい、会話をしたいという気持ちを持って活動できるような工夫がされている。

続いて学校図書 Junior Total English については、単元ごとに学習内容に関連した文法、フレーズが使われた伝統的な英語の歌が掲載されており、児童が学習した内容から英語の歌が歌えるようになったというような実感を持つことができる。

（質問・意見）

山田委員

英語という教科は教科書が重要だが、ヒアリングというか、耳で聴く部分も重要な要素かと思う。音声ガイドがいくつかの教科書ではQRコードを読み込む形で入っていた。調査委員会でこの音声の副材についてどのように検討されたかということと、現場の授業の中でどのように先生方がこれを使用されるイメージなのか、その辺りを現時点で分かる範囲でお答えいただきたい。

教育指導課指導主事

教科書の各所に表示されているQRコードをそれぞれ読み取って、どんな音声が流れるか、また映像や学習、教材のリンクにつながっているかなどを確認し、またそのQRコードが単元ごとにあるのか、活動ごとにあるのかといったことを調査研究した。それを教科書全体の要素の一つとして比較の材料とした。現場でどのように使うかということだが、学校ごとに違うところはあるとは思うのだが、学校ではQRコードを読み取って、使用できるiPadの準備が整っているので、これを利用して会話を見本として聴いたり、聴いてリピートするといったようなことで使われるのではないか、と想定される。

山田委員

そのiPadの仕様だが、それは生徒に個々に与えられるのか、先生が代表して読み取ったものを皆で聴くようになるのか。

教育指導課指導主事

両方できる。

山田委員

私もその音声教材もチェックしながら見せていただいた。英語となっているが、本来、教科としては外国語教育だと思う。実際の内容はほとんどが英語になっており、その意味では、世界にいろいろな言語があるとか、文字にしても非常に差異があるということが、最初にもう少しあってもよかったという印象があった。私自身も海外で勉強した経験と子どもたちを留学させたり、欧米やオセアニアの教育を見て来た経験を念頭におきながら、これからの鎌倉の子どもたちに真に有用な生きた英語を学ぶには、どの教材がふさわしいかという観点で主に六つのポイントを中心に見てきた。

一つ目は最初の５年生の教科書で自己紹介が多く取り上げられている。しかしその載せ方に差があると感じた。学校図書のPlatinum Englishだとか、あいさつをしましょう、こういったところでは自然なセッティングで自分のとなりの友達とか周囲の児童とコミュニケーションをとるという自己紹介になっている。特に光村は最初の四つの大切というコーナーが５・六年生共にあり、笑顔を見てはっきりとした声で相手の反応を見て、という英語を話すかどうかという以前のコミュニケーションの基本姿勢をしっかりと扱っているところがとて

も好感が持てた。これが英語教育のスタート地点なのではないかと感じた。それに対して、名刺交換の場面を載せているものが、東京書籍と開隆堂の教科書であった。英語がコミュニケーションを取るためのツールであって、名刺のようなものに頼ることよりも、相手の目を見て、表情などの非言語のコミュニケーションを取りながら、自己紹介をするという基本に立ち返ったことをして欲しいという気持ちがあった。実際には子ども同士が名刺交換をするというのはシチュエーションとしてはありえないし、もしあるとするとSNSのアカウントを交換するだとか、そういったことは想像がつくのだが、ちょっと名刺交換というのはどうかという話を委員としていた。啓林館は他と趣向が違って、誕生日とかそういった入り方をして個性があると感じたが、コミュニケーションの量は書くことを重視しているという印象を受けた。

二つ目だが、音声教材について先程も質問させていただいたが、QR コードで発音が聴ける、とても便利な時代になったと思った。学校図書の音声ガイドは文章が短く扱われていて、実際に操作してもとても使いやすいと思ったのと、音声がネイティブの子どもたちの声が中心になっていることが、きっと子どもたちにとって身近で聞きやすいのではないか、ほかは大人の声が多いという印象を受けた。

三つ目が外国語活動という主旨なのだが、これは先程冒頭で触れたが、開隆堂の六年生の「Watch the world」とか、三省堂の「世界のあいさつ」、教育出版の「Welcome to one more smile」、光村の「こんにちは、友達になろうよ」は世界の様々な言語のあいさつが扱われているのがよいと思った。

四つ目が生きた英語がどういうふうに学べるかという点なのだが、教育出版が１番、生きた英語を取り入れている印象を受けた。「Sound and Letters」というコーナーで、英語とカタカナの違いというのを意識して行うリスニング活動があり、これはとても重要だと思った。私自身がカタカナで覚えたものをそのまま海外で言って、全然通じなかった経験がたくさんあったし、本当にカタカナにしてしまうことで意味も違ってしまう場合もあるので、ここは非常に重要だと思った。日本を紹介する会話を取り入れているところが多く、少し５年生には難しいのではないのかと思った内容もあったのだが、発言するということに非常に力を入れているような気がした。鎌倉は外国からの訪問客が多いので、道案内を実際に聞かれたり、あるいは自分が聞いたり、外国に行って聞くというようなシュチュエーションにも実際に使いやすいのではないかと感じた。

そして五つ目が would you like という文書に関してなのだが、５年生の教科書の中で would you like という単語が出るのだが、５年生で学ぶのは難しいのではないかと一瞬思った。しかし、とてもきれいな表現を早いうちから学ぶというのはとても大事なことで、子どもが丁寧な綺麗な言葉を身につけることで実際に使った時に好印象になるし、どうせ覚えるなら綺麗な言葉で覚えて欲しいという意味ではとても良いと思った。

最後の六つ目だが、いろいろな付録の辞典とか巻末の単語集があるのだが、こちらは東京書籍のものがとてもよかった。各教科書に工夫があったのだが、ほかにもインターネット上のアプリだとか、ボキャブラリーゲームのなどがあり、単語を覚えると点数がついていくとかそういった楽しく単語を覚える教材もあるので、この教科書だけでなくても活用できると思う。そのようなことを総合的に考えると、私は教育出版と学校図書、光村図書がとても鎌倉の教科書としてはふさわしいように感じた。ほかの委員のご意見も伺いたいと思う。

齋藤委員

多くの出版社の教科書を一つずつ見ていった。東京書籍は、ゲームとか子どもが親しみやすいようなものを上手に取り入れているところがあり、興味や関心を持って取り組んでいけるということ、それと１ページ、一時間半かかるぐらいで、情報量がそれなりによいということを感じた。単語リストがついていたり、工夫されていて、復習もできるようになっており、分かりやすくてよいということも感じた。５・六年生になってくると、学習内容の量が多くなってきて厳しい。国際議会とか世界についての内容が多くなってくるので、それなりによい学びになるとは思うのだが、初めて教科書を使うことを考えた時にどうかということを感じた。

学校図書だが、大判で使いにくいという気はしたのだが、その分ゆったりと載せられていた。日本語の文もついており、レッスンに全員が取り組めるように配慮されており、初めて英語の教科書をもらう子どもがほっとするものがある。安心して取り組めるので、先日の新聞にも載っていたが、英語嫌い、英語が分からないという子が多いという記事を見て、私もそういう点は考えていかなければいけないというのを改めて感じている。もう一つは、子どもの生活にあっていて、実用的に日常的に使えるような英語の表現が多いところがよいと感じた。

教育出版なのだが、やはり「子どもに合う」というのを強く感じた。と言うのは、子どもが取り組みやすい基本的な内容が多く掲載されている。単元ごとのワークシートがあり、振り返りができて身に付いていくのではないかと思った。教科書の後ろの方のワークシート、それをノートの代わりとして上手に使っていくと学習内容はとても定着していく。また活動を活発にしていけるのではないのかということも感じた。教材が自己紹介とか誕生日カレンダー、夢の時間とか自由な一日の過ごし方とか、単元の流れが教育出版はよいということも感じた。他教科等のつながりがあり、私も実はほっとした部分なのだが、がま君とかえる君というのは、低学年で勉強し、とても子どもたちが楽しんで学習をする部分なのだが、その教材が載っているのである。私も読んで、これなら苦手な子も楽しんでできるという思いも持った。

最後になるが、その辺りで、どこがよいか、というところを非常に迷ったところなのだが、１番大事なのは学校の先生方、そして子どもたちが使いやすい教科書を選んでいかなくてはならないというところで、学校図書を推薦したいと思っている。

朝比奈委員

私も教科書を拝見して、まさか小学校で英語を学ぶようなことがあろうかと驚いた。私自身がいまだに伝統文化のことを伝えるのに四苦八苦している有り様なのだが、先生方が子どもたちに教えるのに、どの教材が１番、その役を担ってくれるかなということを想像しながら拝見した。検討委員会の先生方が選んだこの３者はそれぞれよくできており、素晴らしい教科書だと感じた。今日のことなので QR コードでインターネットサイトにアクセスして聴くことができる。私が中学生時代にラジカセで伸びてしまったようなテープで聞かされた発音なんかより、よっぽどよい環境で聞くことができる。先生方が必ずしもよい発音ができるとは限らない。能力に差があると思う。そんな時により確かな教材があれば、先生も安心し

て、そしてきちっとした外国語を伝えることができる。お手本がよい方が、子どもたちも楽しいと思う。先生方の能力を疑う訳ではないのだが、やはりそこで興味が失せるか、あるいはどんどんのめりこんでいただけるかというのは、そういった内容の良し悪しで違ってくると思う。

この３者のサイトを QR コードでアクセスして確認すると、もちろんテキストだけで見ると東京書籍も素晴らしいが、圧倒的に学校図書の方が分かりやすいサイトであった。発音も素敵であった。今の英語の発音の感じというのは、私なんかの頃はイギリス英語だったと思うのだが、そうではなくてアメリカのテレビドラマに親しむ、そういった英語が多いのが今の時代だと思うのだが、それでもあまりにも聞き取りにくいようでは、もう遠ざかってしまうと思う。ところが学校図書は非常に聞き取りやすい。その中でもよい発音だと、英語が分からない私でも感じた。そういう点で選んだとすれば、私は学校図書の方がいろいろな先生方にとっても、子どもたちに伝えやすい教科書にでき上がっているのではないかという印象を持った。

下平委員

今回、小学校で初めて外国語の教育が取り入れられるということで、各者、本当に初めてなだけに非常にバラエティーに富んでいて、読みものとしても非常に興味をそそられながら、どの教科書も引きつけられて読んだ。先程皆さまもおっしゃっているのだが、私自身も中学から徹底して英語教育を受けたはずなのだが、現実に社会に出たら使いものにならないことに愕然とした経験がある。まず大事なのは初めて英語に触れる、外国語に触れる子どもたちが「楽しいな」というふうに思いながら勉強できるとよいなということを非常に重視して考えた。皆さんもおっしゃっているが、やはり単語をしっかりと覚えられるとか、文法が分かるということよりも、海外の方とちゃんとアイコンタクトをして、スマイルを大事にしっかりとまっすぐと向かい合える、あいさつができるとか、そういうことがとても大事だと思って、その点を非常に大事にしている教科書に好感が持てた。

そういう意味では光村図書、学校図書、そして東京書籍とか三省堂とか、そういうところがすごくそれを大事にしていると感じたところである。東京書籍と学校図書が飛び抜けて大きい特大サイズになっていた。これを先生にも「大きすぎませんか」みたいなことも伺ったりしたのだが、逆に大きいがために非常にダイナミックな作りになっていて、非常に好奇心をそそられるような紙面構成ができていると思ったし、机の上で開きやすい。同時に音声教材も使いながらということになるから、開いたのが閉じてしまうということだと非常に使いにくいと思うのだが、そういう意味では使いやすいと感じた。

東京書籍を拝見した時に、非常に上級者向けだな、という実感を持った。ヒアリング、会話を非常に重視しているということが分かったし、音声教材でもかなり長い会話文が取り入れられている、というような特徴があった。ピクチャーディクショナリーは分冊でできていて、これは私も欲しいと思うくらいよくできていると思ったし、使い勝手もよいという印象があった。ただ本当に上級者向けで、例えば全く初めて外国語に触れる子どもにとっては、教科書の中にあまり日本語の説明文が入っていない。得意な先生方だったら非常に指導しやすいのかもしれないのだが、やはりついていけなくなると分からなくなってしまうところがあるのではないかということと、あとは私自身も子どもと休みの日などには、教科書を読ん

で質問に答えたりとか宿題を手伝ったりということがあったのだが、これだとあまりにも説明文が少なくて音声教材だけだと、家庭の中で、親子で、話し合いということになりにくいという感じがしたところに抵抗があった。

先程山田委員もおっしゃっていたが、名刺作りでやりましょう、という実習がかなり大きく取り上げられているというのは、海外に行った時にはあまり役に立たないのではないかなと感じたところである。そういう意味では、同じ大きいサイズでダイナミックな作りになっている学校図書は、非常に紙面構成が１ページごとすっきりしている。大変見やすい、目で追いやすいということがあるし、日本語での解説もよいポイントで丁寧に作られているということを感じた。導入部分もクラスルーム・イングリッシュ、挨拶とか感謝をするということを大切にしているし、後は実際に海外に行った時に大事な、いくつですか、いくらですか、どこにあるか、というようなテーマが明確に分かりやすく説明されていた。先程委員もおっしゃったが、音声教材を比較してみると、QR コードを読み込んでスマホ等で見られる訳だが、ぱっと目に飛び込んだ時の教材がすごくすっきりと整理されている。タップしながら音声をその場で聴いていくのだが、それも次々順繰りに送られていて非常に使いやすい工夫がなされているということを感じた。

各者ともそれぞれに魅力的ではあったのだが、以上のような点から、東京書籍はちょっと上級者向けだと思った。慣れている先生ならよいかもしれないけれどという不安も少しあったので、やはり学校図書を、実際に海外へ行った時に活用できるレベルで、子どもが親しみやすく学べるという点で、推したいと感じた。

安良岡教育長

外国語（英語）の目標というのが、「聴くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」というふうになっているが、話すことの中でもう一つ「発表」、「書くこと」という、これら五つをどこの教科書も工夫して取り入れていると感じた。また報告書の中で東京書籍に◎(二重丸)がついてるのだが、教科書が見開きで自分たちがどういうステップでやっていけばよいかというのが分かり、先生方もこういう指導がしていけばというような授業の組み立てはできると思うのだが、先程下平委員が話したように、難しさがあるというところは感じているところである。そういう点でいろいろ見て行く中で、学校図書が問題文や活動内容の説明が日本で詳しく表記されているというような部分については、子どもたちが自分で課題を解決していこうと考えた時に、日本語でも説明があることによって自分でも内容を理解して活動できるのではないかということ、そして子どもの負担にならずに書くことにも慣れていく、そんなことを感じているところで、私も学校図書がよいかという判断をしたところであるが、山田委員の方から最初に教育出版、光村といろいろ話があったので、再度ご意見いただければと思う。

山田委員

私はこの３者は本当にどれも選びがたいという思いであったし、その中でも学校図書が１番、レベルと教材の使い方が現場に合っていると思ったので、こちらでお願いをしたいと思う。

安良岡教育長

それでは意見が出揃ったので、まとめていくことにしたいと思うが、各委員のご意見をまとめると、外国語（英語）は学校図書ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

では外国語（英語）については学校図書を選定することとしたいと思う。

それでは次に、この報告書の順番に戻り、１ページの「国語」から順番に報告をお願いしたいと思うので、国語について、報告をお願いする。

教育指導課指導主事

国語について説明する。資料の１ページを参照願いたい。検討委員会で４者の教科書見本を検討した結果、東京書籍、学校図書、光村図書の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。３者の中でも特に光村図書への意見が多く、検討委員会として１番の推薦とした。

それでは東京書籍について説明する。読むことでは手引きに児童の反応例を示すことで、自らの考えを見直したり、思考を深めたりする学びが展開できるようになっている。

続いて学校図書について説明する。読むことでは４学年以上の下巻冒頭に複数の文章を読み比べる教材が取り上げられ、自分の立場を明確にし、意見を形成する力が身に付けられるようになっている。また狂言が題材に取り上げられていて、鎌倉能舞台を鑑賞する学習とつながりを持つことができるようになっている。

続いて光村図書について説明する。話すこと、聞くことでは、身近で興味関心を引き出す内容や、誰でも活動に参加できる題材が設定されている。また学習に合った対話や話し合いの仕方を分かりやすく説明した動画が各ページにある QR コードで用意されている。また古典を学ぶ教材が充実しており、発達の段階に合わせ、系統立てて配置されている。狂言も載せられており、鎌倉能舞台を鑑賞する学習とつながりを持つことができる題材となっている。

（質問・意見）

齋藤委員

国語は４者ということで、軽く触れてみたいと思う。東京書籍については、言葉の力という欄があり、子どもたちがどう話し合い、また学んで、どういう力をつけていくか、また国語の学習の進め方として、使うとか振り返るとか、内容が豊富で難しい部分もあるかもしれないのだが、しっかり学べるようになっていた。それを踏まえて主体的に学習に取り組む、そういう学習の要点もはっきりしているというところのよさも感じた。

この中で私が最初に目がいったのが「広島のうた」というところで、国語の教科書にこういうものが載るようになったのかと思った。それも大事なことなのだが、とても長かったと思う。苦しかった。でも、そういうものも国語の中で、またいろいろな教材の中で学び、教

えていかなければいけない部分だということを感じた。

また、「読書とわたし」というコーナーがあり、複数の作品を関連づけて読もうとするきっかけのために紹介をするということで、より深く、より味わえるように読書生活を豊かにしていく、自ら取り組んでいくようにするという配慮が見られた。

学校図書なのだが、折り込みを入れている部分があるなど工夫されていた。例えば、いろいろな日記を書こうというコーナーがあり、「やったね日記」、「ありがとう日記」、「はっけん日記」ということなので、手立てとか書きやすいような道筋が付けられていると感じた。

教育出版なのだが、内容がまとまっていて、字が大きくて読みやすく、カットとか挿絵が整っていたと感じている。子どもの心に沿い、絵の色も明るくきれいで工夫されていた。１年生の教科書はひらがなを丁寧に扱っていかないといけないという心意気を感じる。一気にひらがなが入ってくると、今の子はいろいろ勉強してきているのだが、私が昔の頃は何も分からない状況で、学校で一つ一つ丁寧に止めや、はらいも習っていくというような時代があったのだが、そういうことも考えて大事にしていきたい、いわゆるそういう能力も伸ばしていかなければいけないと感じた。物語が充実しており、ここが大事だとか、確かめよう、考えようとか、そういう学習の手引きを巧みに入っていた。

続いて光村図書なのだが、子どもが不安いっぱいで入学をし、その中で国語の教科書を開いた時に、とても緊張している子どもたちにとって親しみやすい教材であり、身近な題材が多く、のびのび、明るく、楽しさから学んでいけると思った。そうすると、緊張して固まっている子どもも、しゃべっていけるようになっていく、つまり子どもが興味関心を持って取り組める教材が入っていると感じた。また説明文、物語、詩、狂言、古典的なものなどよい具合にバランスよく載っていた。そういう点でも数々の配慮を感じるのだが、抵抗なく物語に入れる、幅広い内容を入れてきているとか、説明文も読んで分かりやすい文になっていること、情景、気持ちが伝わってくるような、そういう題材で配列が適切になっているというようなことを感じた。

そういう点から考えると、鎌倉市の子どもたちが１番取り組みやすい光村がよいと思っている。

朝比奈委員

教科書を初めて見る１年生のものを特に比べて見ていくようにしていた。感想を申し上げると、どの出版社もその辺は考えて作られているとは思う。ただ光村図書はフォントがよいのか、すごく見やすい。齋藤委員も話していたが、初めて開いた時に入っていける、そんな風に感じる。特に低学年の子どもたちにとっては、初めての教科書になる訳だから、その辺のポイントとしてはすごく大切なことなのではないかと思う。やはりこの教科書の作り方もセンスというかそういう感覚的なところが私は大切なのではないかと感じるので、簡単な話になるが、この中では光村図書が１番よかったと感じた。

下平委員

いずれもそれぞれに素晴らしい教科書で、どれも読みふけってしまって時間が経つのを忘れるほどだった。東京書籍から一つずつ申し上げると、東京書籍は他の出版社と比べると、

学習の進め方の最初のページ、巻末のこの学年で習った漢字の書き順など、各所あるのだが、それ以外にも言葉の広場、言葉の力などが非常にすっきりと分かりやすくまとまっていて、導入部、まとめが非常に使いやすいのではないかと感じた。読み物としてもバラエティに富んでいて、和と洋の比較とかパラリンピックを取り上げていたり、ネット文化についても詳しく取り上げてあった。５年生の「だいじょうぶ」、６年生の「広島のうた」、プロフェッショナルとして各現場で活躍していらっしゃる方を取り上げた読み物だとか、日野原先生が子どもたちに送る言葉が非常に印象に残った。そういう意味でも大変魅力的な教科書だったと感じる。

学校図書なのだが、最初に開いたページのイラストとか写真、詩など非常にインパクトがあった。他の教科書会社と比べると、下の段の活用が非常に上手で、漢字を取り上げているだけではなくて上手く使っていると感じる。５年生でやなせたかしさんの伝記があるのだが、全文で取り上げていて、非常に感銘を受けた。６年生で採用されている文章も非常に印象的で子どもたちに是非触れて欲しいと思うような内容であった。

教育出版は、まどみちおさんの言葉とか詩がかなり多用されているというのが印象に残った。１年生で何回か出てきており、３年生でも出てきた。非常に面白かったのが、３枚の写真を並べていって、この間に何が起こったのかという変化を考えて説明するという教材があって、非常に面白い取り組みだと印象に残った。

光村図書だが、光村図書と東京書籍は５、６年生が分冊になっていなくて、かなり厚いのである。厚いので確かに重いというのはあると思うのだが、非常に長い読みものがしっかりと充実の内容で取り上げられるという印象が残った。バラエティーに富んだ読みものが豊富にあった。３年生の「ちいちゃんのかげおくり」とか、４年生の「一つの花」、５年生のやなせたかしさんの伝記、これは学校図書の方が全文で掲載されていて、こちらはちょっと略していたと思う。後は６年生で「時計の時間と心の時間」という心理学者の方の、一川誠さんの文章があるのだが、心理的な時間の活用法というのはすごく重要なテーマだと思う。心をどこに置くかで１日同じように生きて生活していても、心の中に閉鎖してしまって生きている人が増えている世の中であるから、そういう意味でも６年生くらいで、ただ時間を過ごすのではなく、自分で活かして時間を使うのだということに触れてもらうというのはすごく大切なことだと感じて非常に印象に残った。

光村図書は最後に「言葉の宝箱」として学習したことを振り返ったり、大切なポイントが何だったのかという明示がされているし、情報もしっかりと整理されていたと感じる。ノートの活用と紙の質もあるのか、非常に開きやすくて見やすい、温かみもある。そういう印象を持った。そういう視点からそれぞれに素晴らしいのだが光村図書を採用したいと感じた。

山田委員

大体皆さんが話して下さったので、それ以外に加えることとすると東京書籍と学校図書が見開きの表紙裏の最初のページが写真と詩など中心になっているが、国語の教科書は文章がいっぱいあってびっしりというイメージがある中で、最初に目が覚まされるというか、そういう工夫はとてもよいと思う。

光村図書はよくよく見て私も見つけたのだが、QR コードがいくつか単元のところに入っており、関連した学習の対話とか話し合いの仕方とか内容にあった動画が出ていたりして、こ

れは面白い試みだと思った。国語も読むだけではなくて、見たり聞いたりすることも重要であるし、話し合いは事例があった方が子どもたちもより進めやすいと思うので、この QR コードは独自性があると思った。

漢字辞典に関しては、学校図書の１番巻末に学年で習った漢字が出てくるのだが、東京書籍が見やすいと思った。そういうこともあるが、教科書としての見易さはやはり光村図書が優れていると思うので、私もこちらを選ばせていただきたいと思う。

安良岡教育長

光村図書では六年生の教科書で狂言の柿山伏を載せている。鎌倉では、六年生全員が能舞台で柿山伏を実際に観る、そして中には能舞台に上がって体験をするということをしている。この教科書に出ていることを自分が実際に体験できる、そして書いてあることを自分で理解する、こういう機会がなかなか無い中で、引き続き鎌倉としては取り組んでいきたいと思うので、他にも様々な教育委員さん、皆さんのお話があったようなこともあるが、そういう点で私も国語は光村図書を採択できたらと考えているところである。

国語については委員の意見をまとめると、光村図書ということでよいか。

（異議なし）

それでは国語については光村図書を選定したいと思っている。

ここで一時間を過ぎたので、10 分ほど休憩したいと思う。10 時 55 分から再開したいと思うので休憩させていただく。

（休　　憩）

安良岡教育長

教育委員会８月臨時会を再開する。次に書写について担当指導主事より説明をお願いする。

教育指導課指導主事

書写について説明する。資料の２ページを参照いただきたい。検討委員会で書写の教科書見本を検討した結果、教育出版、光村図書、日本文教出版の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。３者の中でも特に光村図書へのご意見への多く、検討委員会として１番の推薦とした。

それでは教育出版について説明する。穂先の動きと点画のつながりを意識するために、朱墨と薄墨を使った図版がほぼ全ての教材に掲載され、筆使いや筆圧などのイメージが持ちやすいように、図や言葉で視覚的に分かりやすいよう工夫されている。

続いて光村図書について説明する。ノート等の横書きの書き方や英語、発表用のポスター、短歌を書くなど、日常生活や他教科の学習内容と関連付けられた教材が豊富に位置づけられ、目次の中の本のマークを見れば、一目で分かるように工夫されている。また、いつでも確かめられるように、全学年の巻頭に、書くときの姿勢や筆の持ち方が掲載され、QR コードか

ら画像でも確認できるような工夫がされている。

続いて日本文教出版について説明する。生活と書写では、手紙の書き方や原稿用紙の使い方、学級新聞の書き方などが取り上げられ、他教科の学習や日常生活に資料として活用できるように、巻末にまとめられている。

（質問・意見）

齋藤委員

５者から教科書が出ているのだが、その中で丸印のついている、教育出版と光村図書、日本文教出版について話をしたいと思う。

まず最初に教育出版だが、とても丁寧な扱いをされているということを感じている。始めに字を書く姿勢、1 ページ目になっていると思うのだが、よい姿勢の合言葉ということで、子どもたちに「腰ピン」とか「腰ピタ」とか「足ピタ」とか「グー一つあけて」とか、非常に具体的に表している。子どもたちもその時間だけではなくて、全体の時間の中でも感じ取って、活用できるということを感じた。また興味を持ちやすく、教科書を見ながら「そうか」と感じるような書きっぷりであること、丁寧に説明が一つ一つあり、「こういう強さで」とか、「ここでこう押さえて」とか、ちゃんと書かれていた。振り返って伝えあっていこうというような内容も書かれており、ただ書くだけではない、別の意味で他の教科にも使えるような取組が掲載されていた。

次に光村図書なのだが、同じように字を書く姿勢を絵や写真で表している。ただ１番に言えることは、国語の教科書と関連性があるということである。お手本は大きくて見やすい。こうやって書くとバランスが取れる、というような説明を、見やすく記載されていると感じた。

日本文教出版については、なぞって書こうというようなものがあり、伸び伸びと書ける。例えば水筆で１ページを使って描くようなところもあった。絵とか図等々が興味を引くように掲載されていた。先程も指導主事が話していたとおり、手紙の書き方、エアメールの書き方が掲載されていて、これから先、役に立つと思った。日常の中で、役立たせるような学習内容が入っているということ、原稿や手紙の書き方も充実しているというところがあって学校図書もなかなかよいと思った。

どこも魅力的なものはいっぱいあるのだが、最終的には国語の教科書に１番関連性があるということで光村図書を推したいと思っている。

朝比奈委員

検定教科書なので、本当にどの発行者も素晴らしい教科書を提案している。検討委員が選んでいる３者の中で考えていった。また、どれが一番とりかかりやすいか、子どもたちが見て楽しく学べるかというところも見ていった。もちろんどの教科書も工夫されているのだが、やはり光村図書の格調高い感じ、情緒的な物言いで恐縮だが大事な印象ではないかと思う。そうありながら QR コードでより情報を深めていくことができるというところが優秀ではないかと思っている。教育出版の水筆シートは大きくて、これはこれで工夫をされていると思うのだが、やはり国語の教科書等の関連を考えたりすると光村図書だと感じている。

下平委員

１年生の最初のページに書くことの姿勢が取り上げているのだが、男の子、女の子等しく同じ大きさで、いろいろな側面から見た写真がきちんと取り上げているのが光村図書と日本文教出版と東京書籍だったと記憶している。東京書籍はサイズが大きくて非常に開きやすいと感じた。１年生の時に「日記を書こう」とか、鉛筆や消しゴムがどのようにできているかという読み物もなども非常に印象的であったし、５年生の「六年生に送る言葉を書いてみよう」とか、「世界の文字に親しもう」とか、そういう工夫があって情報量が多いと思った。

教育出版なのだが、合言葉として「腰ピン、足ピタ、グー一つ」ということでしっかり姿勢を整えて書こうという工夫がなされていると思った。付録も非常に充実していて、学校探検、文字探検なども興味を持って取り組めると思った。ただ教育出版は情報量が非常に多くて、書写のテキストとしては非常にごちゃごちゃしているという印象があった。

日本文教出版は、３学年以降は筆の運び方などが朱墨、薄墨などを上手く活用して筆の運びが非常に捉えやすく描かれている工夫があるように思う。

光村図書は非常に文字がきれいで、すっきりと見やすく、使いやすい、無駄の無い作りになっていると思ったし、３年生のローマ字に親しむページ等も非常に分かり易かった。そして５・六年では、やはりハガキ、手紙の書き方などが丁寧に指導してあって、実際に生活の中でも活用できると感じた。それぞれによいところはあるのだが、光村図書を選びたいと思う。

山田委員

書写は比較的目指すところが明快ということもあって、どの教科書も本当に遜色ないと思うのだが、独自性が見られたのが光村図書で、１年生の見開きのところが、書写体操というのものを導入していた。他は書き方とか書く時の椅子に座った姿勢というところから入っているが、まずよい姿勢といっても、それを取るにはどういった体が必要か、体をほぐしておかなくてはいけない、という点が含まれているところがとても面白いと思ったし、これはちょっとうっかりしてまだ見ていないのだが、QR コードがあるので、おそらくこの体操が動画になっているのではないかと思う。こういうところから入っていくと子どもたちも楽しく取り組めると思った。

書き方とか書き順、自然のよい姿勢とか鉛筆の持ち方、こういったことに関してはどこの教科書もきちんと取り上げているし遜色ないのだが、教育出版は見開きのところで、４年生の「世界のこんにちは」、５年生は「書き方の工夫」、六年生で「文字の旅」という感じで、単に毛筆や硬筆で書くことだけではなく、言葉、文字というものは世界でいろいろなものがあって、いろいろな使い方がされているという、デザイン性も含めたことが取り入れられているところがとてもよいと思った。

日本文教出版は他と違って、表紙が切り絵なのか、とても格調高いと思った。それぞれによさがある中で、国語との連動も含めて私も光村図書を選ばせていただいた。

安良岡教育長

３年生の書写を比べてみると、どの教科書会社も、筆の使い方についてイラストを上手く

使っていて、力の入れ具合だとか、使い方が分かるようになっていると思った。自分でも筆を使っていろいろ書いても、この教科書にあるような書き方ができないのを、もう一度、３年生の教科書を見て練習しなければいけないと思ったところだが、各教科書会社でいろいろ工夫がされてはいるのだが、国語の教科書との関連性を考えると、やはり私も書写の教科書については、光村図書がよいと考えているところである。

そうすると書写については光村図書ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

では書写については光村図書を選定することとする。

次に社会科について、担当指導主事より報告書の説明をお願いしたいと思う。

教育指導課指導主事

社会について説明する。資料の３ページを参照いただきたい。検討委員会で３者の教科書見本版を検討した結果、３者の中でも特に教育出版へのご意見が多く、鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。

まず東京書籍については、学習の流れが「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という構成になっており、また「教科関連マーク」によって他教科とのつながりが分かりやすく、教科横断的な学習を意識することができる。写真やイラストが見やすい大きさで掲載されており、例えば六年生の歴史の原爆ドーム、新宿の写真など過去と現在との比較が見やすく配置されており、児童の気づきや発見を引き出す工夫がされている。

続いて教育出版については、学習を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」で構成されており、問題解決的な学習を、見通しを持って進められるように工夫されており、内容に関しては３・４年生で特に神奈川県の事例の記載が多く、地域学習において児童が身近な事例を参考に学習できるようになっている。また「ひろげる」というコーナーでは資源、エネルギーやリサイクル都市など持続可能な社会について児童が考えるきっかけとなる発展的な学習的をしやすい資料が掲載されている。

続いて日本文教出版については、本文中の重要な言葉が欄外でキーワードやノートマークで取り上げられており､丁寧に説明がされており、また学び方、調べ方コーナーとして､「見る」「調べる」「読み取る」「表現する」という進め方で学習が構成され、説明も充実しているため、自主的な学習の進め方ができるようになっている。

（質問・意見）

朝比奈委員

提案が３者だけなので、ここから絞られる訳なのだが、今の総合教科にもあるが、「調べる」「まとめる」こういった構成の工夫は各者共通するようなところだと思う。そこで一者を選ぶとすれば、やはり神奈川県の事例がより多く紹介されるというところで、子どもたちからすると非常に親しみを持って興味が湧いて望めるのではないかと感じる。社会科の教科書

に関しては特段 QR コード等で情報がひろがる工夫はなかったようなところがちょっと残念だが、私としては教育出版が１番よいのではないかと感じる。

下平委員

教育出版が飛びぬけて分厚くて、持ち運びが大変かと感じたのだが、最近学校でも置いて帰ってもよいとなっているそうで、その点では安心した。

東京書籍は５・六年も上下、分冊になっている。六年生の下、政治国際編は非常に分かりやすく、憲法、選挙、議会のことなどが説明されていて、印象的な作りになっていたと感じた。

日本文教出版は、防災とか安全、情報社会、自然環境などに非常に力をいれているという印象を受けた。

教育出版は、３年生の１番最初の導入部に、神奈川県横浜市が中心に取り上げられていて、町の探検マップも横浜だし、役所の見学、工場では崎陽軒の工場などが取り上げられていて、鎌倉の子どもには非常に身近に感じられるのではないかと感じた。４・５・六年でも、相模湖の浄水場ダムとか箱根とか、川崎市の地下道のことが取り上げられていたり、鎌倉に関しても、由比ヶ浜が大事に取り上げられていて、北条政子の言葉、鎌倉街道の切通しなども詳細に書いてあったと感じた。あとは 215 ページに杉原千畝さんのことを取り上げていたし、ノーベル賞の一覧表も非常に印象的な作りになっていたということが印象に残っている。あとは、他国との微妙な様々な問題があると思うのだが、それに対して少し配慮のある表現を使っているというようなことも印象として残った。

そんな意味で教育出版の教科書を採択したいと感じる。

山田委員

私も結論からすると、教育出版が最もふさわしいのではないかと感じている。最初に教科書を見た時には５・六年生が分冊になっている、東京書籍がよいと思った。子どもたちが使うという状況を考えると、例えば歴史と政治を同時にやることはないので、分かれている方が扱いやすいし、子どもたちの荷物の多さというのは、登下校の姿を見る時も、みんな重そうで大変だと思っているので、よい配慮なのではないかと思った。

しかし、中身を見ていくと、やはり自分たちの地域が関連する神奈川県が多く扱われているというのが、１番身近に感じるところだろうし、それが入り易さにつながっていくのであれば重要だと思う。若宮大路が出ているし、先程下平委員がお話しした、国際関係の争点になっているような部分の表現も、例えば竹島なども働きかけというところと抗議というところと分かれているし、その辺を考慮すると教育出版がよいと思っている。

齋藤委員

私も教育出版がよいと考えている。というのは、まず教育出版は委員がお話ししたように、とにかく身近な問題を取り上げている。横浜や神奈川県の内容が記載されていると、授業だけでなくて、授業の中で触れたことを、改めて別のお休みの時とか、家族でどこかに行こうかとかといった際に活用できる。そういう意味でも自分なりの学びができると思った。

もう一つは、学びの手引きということで解説がついて、よく分かるようになっており、子

どもが自分自身で考えられるようになっている。自分で学習の課題を作って、見通しをもって学習を進めることができるのではないかということ、意欲的に調べたり考えたりする力を学んでいけるということ、対話的な学習を行えるような育ちをするのではないかということを教育出版の教科書を見ながら改めて感じた。

領土問題についても非常に配慮されているというところは、１番大事なところなのではないかと思った。それとあわせて他国とのつながりにも配慮しているようなところで、教育出版がよいと考えた。

東京書籍も主体的に学ぶとか、社会との関わりを身につけて、調べて考えて見通しを持って考えていけるというようなよい部分もたくさんあった。

日本文教出版については、非常に配慮されていて重要な言葉の説明も多くて、分かりやすくなっていた。「見る」「調べる」「読み取る」「表現する」というコーナーがあり、問題を追究し解決しようという、そういう姿勢を育てることができるという、そういう素晴らしさも感じた。

ただ先程話したように、私も子どもの成長を考え、神奈川を愛する子ども、また日本を見つめ世界を見つめていける子どもを育てて欲しいという願いから、教育出版を推したいと思っている。

安良岡教育長

私も、子どもが実際に土日に行って体験してみるとか、あるいは行ったことがあるとか、そういうものが教科書に載っているということは非常に子どもたちの意欲につながるものだと思うので、神奈川の特に横浜あるいは、その身近なところとかいろいろ取り上げている教育出版がよいと考えているところである。

ただやはり東京書籍の方は、歴史と政治と２冊に分かれているということで、子どもにとっては使いやすいし、先生方も授業をしていく上で扱いやすいと思う。東京書籍の歴史の教科書では、日本遺産を調べようということで、鎌倉を載せているので、子どもたちが、自分たちで勉強するよい機会になると思っているところではある。

そういうようなところを見ても、私も他の教育委員さんと同じように教育出版を選ぶのがよいのという判断をしているところである。ということで、社会については、皆様からのご意見をまとめると、教育出版ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

では社会では教育出版を選定することとする。次に地図について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

地図について説明する。資料の４ページを参照願いたい。検討委員会で２者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍がより鎌倉の子どもたちにふさわしいとされ、そのような結果になった。

まず東京書籍については、日本の都道府県の統計は見開きで文字が大きく、読み取りしやすい配慮がなされており、また内容としては特設ページが多く掲載されており、「日本の自然災害」、「比べてみよう日本と世界」のページなどイラストや写真が見やすく配置されている。更に「日本の歴史」のページでは、その時代ごとの世界の国々の様子や、近代の日本の領土の変容が掲載されており、六年生の歴史学習でも活用しやすくなっている。

続いて帝国書院については、児童が学びやすいような配慮をした優しい色調となっている。また地図マスターへの道というのが主なページに掲載されており、それぞれの課題をクリアしながら学習ができ、最後に「地図マスターのまとめ」で振り返ることができる構成となっており、児童が自主的に学習できるよう配慮されている。

（質問・意見）

朝比奈委員

二者のどちらかということになる訳だが、検討委員の方は東京書籍をお勧めになられている。拝見したところ、東京書籍は非常に資料が豊富な感じがする。手元に残しておいて、あとで見返しても、資料としてはすごく楽しめるというか、役に立つところだと思う。ただ資料である以上は、年数が経てば情報が古くなるということもあるが。

それよりも、あくまでも地図帳であるということを尊重して考えると、帝国書院はうるさくなくて、非常に見やすい地図にできていると思う。神奈川県の鎌倉のところを見ると、ちゃんと円覚寺とか建長寺とか出ている。見易さは大事だと思う。

東京書籍は、今時の明るいアニメっぽい絵になっており、私は教科書にイメージとして求めるのは格調高さというのは大事な基準になるのではないか思っており、帝国書院を採用したいと思っている。

齋藤委員

東京書籍の方だが、資料が多くて情報量も多く、地図帳を眺めながら考えられる部分がたくさんある。拡大地図があり、活用しやすい点もたくさん見られるが、その分細かく表されているというところで、逆に裏に取ると、ちょっと見にくいと思うところがある。表現が悪いが、ごちゃごちゃしている。そんなところがちょっと残念だと思った。

帝国書院については、地図全体がはっきり見えて、見やすいということを感じる。色の使い方がとても巧みで見やすい。地図マスターへの道というのがあり、振り返りができる。そういうまとめがあると、児童にとって調べやすくなると思う。子どもたちが興味を持って、どんなところでも教科書を出してきて、見て、知識を広げていくことによって、児童の理解が深まる。とてもよいことだと思った。

ということを考えると、気づきが多いし、次々と興味を持って調べていこうという、そういう子どもを育てられる地図帳であるというところで、帝国書院を推したいと思っている。

下平委員

私の小学校の時の地図帳も、息子の小学校の時の地図帳もうちに残っており、けっこう長きに渡って活用するのだが、その視点からも拝見し、私は東京書籍に非常に惹かれた。

まずは表紙もすっきりしているし、イラストを多用していないというところも好きだし、あとは統計が非常に見やすいし、資料として長く活用できるという感じがした。最初に地図の冒険として、世界地図、日本地図が非常に子どもたちに親しみやすく書いてある点が、地図帳への導入として、そして地理への導入として、非常に工夫されていると感じた。

それで最初は東京書籍だと思っていたのだが、確かに授業の中で地図帳として使うということを考えると、資料とか統計は年々変わっていくものでもあるし、開いた時に地図帳として、すっきり見やすく活用できるという点、やはり「地図マスターへの道」も印象的であったし、そういう点から考えて帝国書院が地図帳としてはやはりふさわしいと感じた。いずれにしても、どちらを視点に置くかだが、どちらも魅力的な地図帳だということは感じている。

山田委員

どちらの地図もよくよく見ると、QR コードが載っている。どんなことが出てくるのかと思い、読み込んでみたら、まず帝国書院はスマートフォンに対応していない。パソコンだけなのか、iPad 等は使えるのか分からないが。一方で東京書籍はモバイルに対応している。子どもが自分で家で見てみたいというような時には、スマートフォンに対応しているとよいと思う反面、地図のような資料だと細かいのでスマートフォンで見られないのかもしれないと思ったので、この辺をどう考えるかというところはある。

私も最初は見るだけで、この一冊に全てが含まれている東京書籍がとてもよいと思ったのだが、資料集が別にあり、使う場合が多いと聞いているので、それだと教科書の情報も結構入っているし、地図帳の中に資料集と教科書の内容が三重に入っているようなものも中にはあり、それはちょっと多すぎると思った。後はぱっと見た時に、なんと表現したらよいか分からないのだが、東京書籍はくっきりし過ぎているのか分からないのだが、視覚的には帝国書院が見やすいということを感じた。

あと、東京書籍は「日本の歴史と世界の関わり」だとか、「比べてみよう日本と世界」というところが充実しているし、帝国書院の方は日本の歴史年表と文化遺産と共に考えているのがとてもよいと思った。やはり年表だけで覚えても、それがどこにあってどんなものなのかということを、きちんと頭の中に入れておかないと、会話で使った時に知識として自分の中から出てこないということがあるので、この辺は使いやすいと思った。

難しい選択の中で、帝国書院の方が単に見やすいという地図帳の大元の役割を果たすということで、選ばせていただく。

安良岡教育長

私は、やはり地図帳なので、子どもたちが地図の使い方を身に付いていくとよいなというところでは、帝国書院の方が様々な尺度の地図が載っているので、地図の尺度等も理解しながら、いろいろな場面で使うことができるということもあると思う。巻末に日本の自然災害というところが両者ともあるのだが、東京書籍の方は見開きで片方折り込みのページで、広く大きく掲載しているが、帝国書院の方は、次のページに防災「災害を防ぐ工夫」ということで、こういう地域ではこんな災害が起きる可能性もあるという工夫をそれぞれしているというのが分かりやすく説明されており、地震の被害、あるいは防災、そういう部分で特に分

かりやすく説明ができていると思う。防災という点では、帝国書院の地図帳が非常に分かりやすいと思ったところである。従って、私も帝国書院の地図を推薦したいと思う。

地図については、帝国書院ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは地図は帝国書院を選定することとする。次に算数について、担当主事から報告書の説明をお願いする。

教育センター指導主事

算数について説明する。資料５ページ、６ページを参照いただきたい。検討委員会で六者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、学校図書、日本文教出版の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。また３者の中でも特に学校図書へのご意見が多く、検討委員会として１番の推薦とした。

まず東京書籍については、「学びのとびら、マイノートをつくろう」で、ノートのまとめ方の具体的な例が示されており、特に低学年のものは行間を十分にとりながら見やすくまとめるなど、児童の発達の段階に則した例となっている。

続いて学校図書については、子どもたちの思考を、時間を使って十分に引き出すなど丁寧に学習を進めているだけではなく、リズミカルな構成、自然な内容、考えたくなるような流れが使いやすく、発展的な内容も身近なものを取り上げている。また AB 版というサイズであり、大きくなった分、開きやすく児童が教科書上で作業しやすくなっている。

続いて日本文教出版については、低学年では親しみやすい写真、絵から算数の学習に入っていくなど、児童にとって学びやすくなっているだけでなく、巻末の学び方ガイドではそれぞれの学年で身につけさせたいことが示されているので、考える力や説明する力が系統的に身に付くよう工夫されている。

（質問・意見）

山田委員

算数という教科は得意不得意が分かれる傾向にある教科と聞いている。自分の若いころを思い返したときに、算数という教科は、人生の中で様々に選択をしていかなければならない時に、一つの正解に向かって自分で解き明かして進んでいくという人生を切り開いていく上でのプロセスを訓練するベースのようなものだったのではないかと今振り返って思う。正解は一つなのだが、そこに辿りつく道は複数あって、その中には効率がよいものとか、時間がかかるものがあって、いくつもの事例を自分で乗り越えていく中で、より効率よく早く進めていくということができるようになるということが、実際の数字を使って訓練できているという、とても今に生きている教科だったように振り返ると思う。そして生きる力とか、自分で人生を切り開いていく力というのが養える教科だということを、授業の中で先生方も生徒たちに感じていただけるような学びの場にしていただけるとありがたいと感じながら教科書

を見てきた。

算数は出版社が非常に多くて、１学年で二冊に分かれているところも多いため、冊数が多くて読み比べるのに非常に苦労した。初めて算数の概念に触れる１年生を特に重要視してみていたのだが、数を数えることに関しては軒並み同じような内容が扱われているが、東京書籍がとてもシンプルで使いやすいと感じた。

学校図書は中折りのページがいくつかあり、それが大きくなればよいのだが、低学年の１年生の始めて教科書を扱う児童にとっては、ずれてしまったりとか上手く折り込めなくて苦労したりということが想像できる。しかしこれが高学年になると、授業が増えて内容が複雑になってくるので、そうなると AB 版というのが断トツで使いやすいというメリットになってくると感じた。

東京書籍の「マイノートをつくろう」とか、学校図書の「考えるノート」、日本文教出版の「算数ノートを作ろう」などは、ノートのまとめ方という、どうしてそうすることがいいのか、ということが書かれており、生徒がノートを取る上で参考になりそうな気がした。そして学校図書の「深めよう」や日本文教出版の「活用」など、どの教科書も学習した内容が身近な題材に応用できる例を上手に挙げていた。そして各単元のタイトルも、昔は図形とか非常にシンプルな殺風景なタイトルが算数には付いていたような感じが思い起こされるが、今は「みんなでなんとかしてみよう」とか、呼びかけ式になっていて、親しみを喚起する工夫がなされていると感じている。

あと、日本文教出版は巻末にその学年だけではなく、それまで全ての学年で学んできたことをまとめて扱っており、確認がしやすいと思った。

また、学校図書の六年生のプログラミングの部というのが、QR コードが付いており、読み込むとカードの並べ方とか、そういったこともできるようになっていて、生徒は面白く感じるかもしれない。

最後に算数とか数学というのは、日本がすごく進んでいる分野で、私が見てきたのはアメリカとイギリスとオセアニアの教育なのだが、経験からすると、どこも軒並み３年くらい遅れており、自分もそうであったし、子どもたちも一人だけでき、３年くらい遅れているという経験をしてきた。もしかしたら、算数がすごく難易度が高いのかとも思うのだが、それくらいよい学びができているというふうにとって、是非、日本の算数の教育というのは大事だし、楽しんで勉強していただければありがたいと思う。そういう中で、私は算数に関しては学校図書がふさわしいのではないかと感じた。

下平委員

私は本当に算数が苦手で、今回はあらためて読みながら４年生から全然ついていけなくなった。改めて自分が勉強するようなつもりで丁寧に読んでいたのだが、結果から申しあげると､学校図書が AB 版という特殊なサイズで非常に開きやすい、見やすい、またすっきりしていて、それで表紙も色鮮やかで算数的な視点が盛り込まれていて、好感の持てるイラストであった。六年生が分冊にはなっているのだが、六年生の一冊の教科書とプラスアルファが中学への架け橋というテーマになっていて、中学へのつながりがすごく丁寧に取り上げてあると思った。私は算数がついていけなくて、さみしい思いをしたというのを覚えているのだが、タイトルが「みんなと学ぼう、学ぶ算数」となっていて、これはみんなといっしょに勉強で

きるのかというところがタイトルとして惹かれた。非常に中がすっきりと自然に視線が流れていくような構成になっていて、リズミカルに学んでいけるような印象があった。

それ以外にも本当にそれぞれ工夫があって、東京書籍は１年生のサイズだけが薄めで特大になっていて、見やすくなっていて、これは工夫があると思った。やはり見やすくて開きやすくなっていたし、テキストとノートというような作り方の構成になっていて、使いやすいと思った。

啓林館も表紙に有名な鮮やかなイラストが使われていて、子どもには親しみやすいという印象もあった。

日本文教出版も表紙が非常にすっきりとして、しかも書き込みが結構あるのだが、書き込みがしやすい、馴染みやすい、そういう工夫もあると思う。

それぞれに工夫があり魅力があったのだが、私自身が学ぶという視点で考えると学校図書が非常に学びやすい教科書ではないか感じたので、そちらを選びたいと感じている。

朝比奈委員

算数は六者からなのだが、やはり検討委員がお選びになった学校図書が私はよいと思った。なんと言っても AB 版がすごく見やすいと感じる。１年生にとって見易さというのはとても大事だと思うし、もちろん高学年になって六年生の教科書を拝見しても、私が老眼だからかもしれないが、断トツに見やすいという印象であった。紙の質であったり、色味なのか、明るくよく見えるので、私は算数が不得意だった覚えは無いのだが、これだったら本当に楽しんで学べる感じがする。QR コードは読み込んで確認できていないのだが、恐らくこれだけしっかり作られていたら、そちらの方ももっと深めていくことができる、そんなことを考える。

先生方も、算数が得意不得意というのがもしかしたらあるのかもしれないのだが、これならば子どもたちに対して分け隔て無くというか、きちんと教えられるようなことが想像できる。それが学校図書の教科書だと思うので、私はこちらを推薦したいと思う。

齋藤委員

東京書籍なのだが、「算数のとびら　上」、「算数だいすき　下」となっており、子どもたちがアレルギーを起こさないような、驚いている間に学びが進んでいくのではないかというような工夫がされていると感じた。そして活かしてみようとか、面白問題にチャレンジしようというようなところでノートをまとめたり、マイノートで自分が分かりやすく仕上げていくというようなことも考えていくと、学習の仕上げもきちっとできていくという、そういうよさがあると感じた。

教育出版なのだが、５・六年で教科書が一冊にまとまっているのは重たいと思ったのだが、児童が興味関心を持つ題材を取り入れているということ、そして「振り返ろう」では、興味を持った子は自分のペースで振り返ったり、また次へ進んだりできるというような配慮がされているということを感じている。

日本文教出版なのだが、書き込みがしやすくなっており、ノートがまとめやすくなっているということ、学びのガイドがあり、考える力だとか説明する力が、自分自身や友達との関係で成長させていくことができるのではないかと思った。

それで最後になったが、学校図書なのだが、学校図書の方が知りたいとか、解決したいという気持ちを強く持てる。また、それが絵と字、または分かりやすいタイル式の判が書いてあって、気が付くと算数を学んでいる。見方や考え方を気が付けば身に付けている、そして対話し､他の友達ともつなげていくことができるのではないかと思った。それで AB 判という話が出ていたのだが、教科書を開くと机の上がちょっと狭くなってしまう、使いづらいかと思えなくもないのだが、図形とかグラフとか書いたり、定規をあてたりという作業の部分では、ゆとりがあって、よいと思っている。とにかく子どもたちが自ら解決する力を育てていく、意欲的に取り組んでいくということを大事にしている教科書だと思った。「中学への架け橋」ということで、中学につなげていくということもとても大事なところだと思い、私も学校図書がよいと思っている。

安良岡教育長

この報告書にもあったとおり、東京書籍の「マイノート」とか「学びのとびら」とかそういうところは非常に子どもたちも取り組みやすいと思った。ただ学校図書が表だとかグラフをしっかり扱っているというところでは、この表、グラフから何を読み取るのかというのが、子どもたちの中では大切になってくると思うので、そういうところが常に子どもたちの意識を持てるような作りをして欲しいと思っている。

また教育出版と啓林館は、ちょうど話題性がある、世界遺産に登録された古市古墳群の写真を大きく載せているのだが、鎌倉の子どもにとってはということを考えていくと、私も学校図書が算数の教科書には適しているというふうに考えている。従って算数については学校図書ということで意見が揃ったと思うがよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは算数については学校図書を選定することとする。ちょうど 12 時前になったので、ここで昼の休憩とさせていただく。再開は 13 時 10 分からにしたいと思うので、よろしくお願いする。ではこれで午前の部を終わりとする。

（休　　憩）

安良岡教育長

それでは引き続き午後の教育委員会８月臨時会を再開する。では理科についてであるが、理科は六者から教科用図書が発行されているが、信州教育出版からは教科書見本本の送付が無いことから、現在資料としてあるのが、教科書趣意書と神奈川県で調査研究のまとめをした資料の二つだけである。十分な調査研究ができないので、見本本が送付されている５者から選ぶことにすることでよろしいか。

（質問・意見）

特になし。

安良岡教育長

それでは理科について説明をお願いする。

教育指導課指導主事

理科について説明をする。資料は７ページを参照いただきたい。教科書は六者から出ているのだが、見本本が届いた５者について検討委員会で検討した。その結果、東京書籍、大日本図書、学校図書の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。また３者の中でも特に東京書籍と学校図書についてのご意見が多く、検討委員会としてはこの二つが推薦ということであった。

まず東京書籍についてだが、学習内容が端的にまとめられており、テンポよく学習ができるように構成されている。大まかな学習の内容と流れが理解できるよう工夫されている。また、大きな版型を活かして必要な文字が大きく目立つように書いており、開いた瞬間に学習の流れや重要ポイントが一目で分かるようになっている。単元末にある、「確かめよう」では、学習内容を振り返ることができる問題が用意されている。また「考えよう」、「説明しましょう」というように指示がはっきりしており、児童が取り組みやすくなっている。裏表紙が目次になっていて必要な場所を探しやすくなっている。

続いて大日本図書についてだが、年間を通して観察することが必要な、例えば天気とか植物といった単元は各学年の始めに掲載されていて、学年の始めに学習をすることで年間を通して観察、学習ができるようになっている。また各所に ESD（持続可能な開発の為の教育）に関連するマークがあるなど、環境教育や課題に対しても意識をして学習をできるようになっている。

続いて学校図書については、児童の身近なことや活動から疑問を見つけ、その後、関連する実験を行うことで身近な事柄とのつながりを児童の気付きによって学習が進められるよう構成されている。単元の中で何回か行われる実験がどのようにつながっているのか、これが明確になっていて、単元の目的に迫っていく過程が分かりやすくなっている。実験の部分では仮説からの流れ、実験の手順やグラフの描き方、それらを利用して考察を深めていくといったまとめ方等が丁寧に記述されている。また、まとめの部分の応用問題にも工夫が見られる。

（質問・意見）

下平委員

理科に関して、やはり検討委員会でも挙げている３者が優れているという印象であった。特に学校図書に関しては印象的な言葉になって恐縮だが、ドラマティックな構成というか、ダイナミックで好奇心をそそるというような工夫がなされていると思った。科学者の表紙、これもインパクトがあるし、裏表紙にも科学者の言葉ということで、科学の世界で様々な功績を上げている方々の言葉が、非常にインパクトある言葉として迫って来ると思った。紙質もあると思うのだが、非常に開きやすい印象であった。そしてページ内の構成が非常に見やすい。４年生の星座のフルページの活用とか、５年生の人の誕生のページなども、やはり非

常にダイナミックな作りになっていると感じた。そういう意味で非常に好奇心をそそる様々な工夫がなされているように感じた。

東京書籍に関しても、表紙の子どもが好奇心を持って取り組んでいる表情がインパクトがあって、これはなかなか印象的で捨てがたいと思ったし、大きさが大きいぶん、非常にすっきりとシンプルにまとまっていて、授業としては流れに沿って非常に使いやすい教科書になっているという印象があった。

大日本図書は表紙の裏を開くと、詩だとか俳句だとか短歌だとか小説が入っていて、国語とか他教科との関連みたいなものも工夫されていると思ったところである。書き込み部分が非常に多くて、授業の中で使いやすいと思ったし、裏表紙に日本の名所などが取り上げられていて、これも他の教科との関連みたいなものが取り扱われていると思った。

以上、それぞれ各者とも魅力的ではあったが、やはりダイナミックさを感じる、好奇心をそそる、非常に工夫がある学校図書を選びたいと感じた。

山田委員

私も下平委員と同じ視点なのだが、科学者の哲学的な言葉が裏表紙に出ているところが、とてもサイエンスのロマンみたいなものを感じる作りだと思っている。表紙は中身のコンテンツではないが、サイエンスを学ぶという心持ちにしてくれるような誘いがあるので、そこはだいぶ他と大きな差が出ていると思う。

大日本図書の裏表紙というのは、最初を見てみたら、松尾芭蕉の言葉とかがあり、なんだろうと一瞬思ったのだが、そういう視点で歌の中にもサイエンス的な感動が詠みこまれているということなのかと思うのと、さらにそれが英語になっているというのがまた面白いと思い、これはこれで逆に英語教材として、とてもよいと思っている。

東京書籍は他に比べて大版であることを活かして、地層とか火山の噴火のところなんかはとてもダイナミックに写真が写しだされていて、これはこれで迫力があると思う。

大日本図書はここで星座シートを作ろうとか、子どもが楽しめそうな仕掛けもあって、これもよいと思った。

やはり科学の奥の深さみたいなものを１番感じられるのが、この学校図書だと思い、私も学校図書を選ばせていただきたいと思う。

齋藤委員

最初に東京書籍だが、ページを開いた時に、春に見られるいろいろな生き物がぱっと出てくる。そして、それがきれいではっきり見ることができ、子どもたちが興味を示すものだと思った。また考えよう、説明しましょう、というようなことがはっきり出ており、何をするかはっきりしていて取り組みやすいと思った。その次に確かめよう、とか、振り返ろう、というテスト式な問題があって、それを埋めていく、というようなところがあり、単元の最後にそれがついているのだが、児童自身が何を学んだかを改めて意識し、振り返りをさせることによって、自分なりの評価、そして全体にどれぐらい分かっているかということを考えられるという意味で、よさを感じたところである。

教育出版だが、とにかく発展学習とか関連学習を取り入れることが多くて、６年から中学１年に向けて広い視野で物事を捉えていくような方向性を持っている発展学習、関連学習と

いう意味でとても力強いと思った。問題にはハテナがあり、予想、計画しようということがあり、それは調べ方を考えていくという意味でとてもよいと思った。実験、確かめがあり、学習の定着をはっきりと図れる工夫がみられているということも感じた。また学びを広げていって発展的学習へとつなげられるというそんなようなよさも感じている。

最後に学校図書なのだが、ここも春の野原の生き物が出てきて綺麗だと思い、クローズアップの花等が綺麗に見れて、惹きつけられるものを感じた。調べていこうというところで、学習の進め方がはっきりしており、問題を見つけ、記録し、整理してまとめていくというようなことがはっきりでている。興味関心を持って調べ、観察し、考え、より学んだことを定着させる、理解していくといったようなことができるという意味で説明がはっきりしていて分かりやすくてよいということ、注意をしなければいけないところに印があり、どこの教科書もそうなのだが、気を付けるようなところは示されているところがあったということ、また私が１番惹かれたところは、大地の変化とか地層のでき方などの写真が非常にはっきりしていて、ダイナミックであった。子どもたちも非常に興味を持ってしっかりと学習できるのではないかと思った。水、土、砂、石とかそういうものがはっきりとあらわされている写真をダイナミックに表しているところがよかったと思う。ということを踏まえて、私も学校図書を選びたいと思っている。

朝比奈委員

私も当初は東京書籍と学校図書が気になったのだが、東京書籍はご覧のとおり大きい判が凄い見応えがあるように見える。これだけ見ると、大変ダイナミックな構成のように見えるし、非常に科学的な好奇心を刺激するような、そういう実験の紹介であったりするわけだが、今齋藤委員も話したように、写真の大きさでいうと、この学校図書は、まあまあ小さいと思うのだが、非常に綺麗である。逆にいうと、構成はオーソドックスだという気がするが、非常に安心して見ることができる。あまりあちこちに散らばっているわけではなくて、非常に整理された本の仕上がりになっていると感じた。これも QR コードのことが書いてあるので、サイトにアクセスすると更に深められていくようなことになっているかと思うが、いずれにせよ、内容で触れているところというのは、各者同じ基本的な物があるわけだから変わらないと思うのだが、構成を見た感じの印象、先程から私が一つ一つ気にする格調の高い感じ、理科の教科書として表紙にもこうして科学者の先生方が写真や絵で紹介されていて、オーソドックスな雰囲気が鎌倉の子どもたちには合うのではないかと思うところから、学校図書を私は推薦したいと思う。

安良岡教育長

私も検討委員会の報告にあるように東京書籍と学校図書の２者がよくできていると思っている。特に東京書籍は教科書が大きくなったことで、そのよさを上手く教科書作りに活かしていると思う。特に 74 ページ、75 ページのところでは、観察で空と地面と土の中と水中というふうに、立体的に示している。普通は横に使っているのだが、スペースを確保する上でこういう使い方もしているところでは、非常に工夫がされていると思った。

あとは学校図書、やはり６年生の支点・力点などのところでは、本当に分かりやすい作りになっていると思う。そういうところを考えると、全体的にはやはり学校図書の方が鎌倉の

子どもたちに適していると思う。
大日本図書も単元の始めに見開きの写真があって、導入の資料となるようなところがある。
教育出版は、確かめのところは書き込み、書くことが中心となって、一人一人の学習の定着につながると思う。
啓林館も問題・計画・実験という流れがあって、見方・考え方を子どもたちに育成できるというような取り組みがされていると思う。算数と理科については、プログラミング教育ということの中で、学習の中で参考として載せるというようなことで、特に理科の６年生の教科書にはこのプログラミングに関する取り組みが出ている。教育出版が使っているスクラッチというのは鎌倉でも取り入れているのだが、他に何か関係しているようなプログラムはあるか。学習の中で使えそうなものは今どんなものがあるか教えていただければと思う。

教育指導課指導主事
プログラミング教育等に対応するために、スクラッチというものが主に主流で使われているのだが、文科から出しているプログラミンというような、サイト上で動かすソフトになるのだが、そのようなものがある。

安良岡教育長
これを使えるパソコンは今、学校に何台あるか。

教育指導課指導主事
iPad が 20 台と Windows のタブレットが 20 台ある。どちらもネット上で対応するので、アプリが入っているどうこうではなく、インターネット上で活用できるようになっている。

安良岡教育長
１クラス単位では、全員が自分で学習することができるのか。

教育指導課指導主事
そうだ。

安良岡教育長
ということで、私も学校図書を推薦したいと思う。理科については学校図書ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長
それでは理科については学校図書という意見が出揃ったので、学校図書を選定することとしたいと思う。では次に生活について担当指導主事にお願いしたいと思う。

教育指導課指導主事

それでは生活について説明する。資料の８ページ、９ページを参照いただきたい。検討委員で七者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、学校図書、光村図書の３者が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。また３者の中でも学校図書へのご意見が多く、検討委員会としての推薦とした。それではまず東京書籍について説明する。

東京書籍は「ほんとうのおおきさポケット図鑑」「いきもの図鑑」「おもちゃを作ろう」など、資料がとても豊富である。作り方・やり方・ポイントが細かく書かれている。下巻末の活動便利手帳では、交通マナーや安全について、手紙ハガキや電話のかけ方など、日常生活に必要な知識や具体的な活動の仕方が丁寧に示されている。

次に学校図書について説明する。写真やイラストがとても大きく、解説や指示的な言葉の記載が少ない。写真の内容も児童の興味を引きやすいものが選ばれている。児童の気付きを促し考える力を育成することができる。また児童のつぶやきをもとに、学習内容の幅を広げることもできる。また学習を振り返り、分かったことを表現する活動では、劇・新聞・造形等の多様な表現活動が示されている。

最後に光村図書だが、単元ごとに記入した振り返りシールを上・下巻、それぞれ巻末にあるジャンプ大集合というページに貼り替えることができる。１年間をまとめて学習全体の流れや成長を振り返ることができ、児童が充実感を持って１年間を振り返ることができるよう工夫されている。

安良岡教育長

生活については、実はここに報告してある出版社以外に信州教育出版がある。八者から発行されているわけだが、信州教育出版からは教科書見本本の送付が無いことと、資料としてあるのが「教科書趣意書」と、「神奈川県の調査研究のまとめ」この二つの資料しかないので、十分な調査研究ができないことから、見本本が送付されているこの七者から選ぶことにしてよいか。

（質問・意見）

特になし。

安良岡教育長

それでは生活については報告書にある七者から選ぶことになるので、ご意見をお願いしたいと思う。

（質問・意見）

下平委員

１年生が入学してから、学校生活とか社会へのつなぎとなる非常に重要な教科だと思いながら拝見をしてきた。先程の報告にもあったのだが、学校図書は他の会社と比べると、極めて文字数が少なめで、写真やイラストが多くて、自分が教師だったら確かに自由に発展的に広げられるという感じはしたのだが、あまり慣れていない先生だったりすると、その辺どう

なのかという不安がある。その辺に関して、調査委員会では何かご意見あったか。

教育指導課指導主事

ご指摘のように、検討委員会の方はベテランの先生方が多く、写真をもとに子どもたちの意見を引き出しやすいというのが学校図書の１番のよいところではないかということであった。東京書籍はとても丁寧なので、流れ等が示されていてやりやすいというところが違いだと思うが、学校図書の１番の売りとして、敢えて指示が少ないというところを推していた。

下平委員

確かにそのとおりで、ベテランの人には自由に広げていけて使いやすいのかと思ったが、様々な先生が教える教科でもあるし、そうなると多少の解説がついていた方がよいかと考えた。最終的には、私は東京書籍をお薦めしたいと感じたのだが、サイズが大きく、大変開きやすい。優しい温かな紙面作りというか、イラスト、色使い、子どもの笑顔と、非常に生き生きした表情がたくさん取り上げられていて、学校生活へのワクワク感が募りそうだ思った。先程あったように「便利手帳」とか「ポケット図鑑」なども実際に授業の中で活用しやすいのではないかという思いがあった。確かに子どものイラストに対する吹き出しの解説みたいな言葉が多いというのは特徴としてあると思うが、ある意味ではそういう手引きがあることで、そこからあなたはどう思うかというような使い方をしていけば、経験の浅い先生方にも発展させていけるのではないだろうかというふうに感じた。

丸印は付いてないのだが、大日本図書の教科書が、私も手にした時にすごくワクワクしたのだが、表紙が非常に立体感があって、切れ目が入っていたりして、すごく好奇心をそそる作りになっている。色使いとかイラスト等も非常に遊び心のあるもので、大日本図書はおそらく子どもの遊び心、ワクワク感、そういうものをすごく大事に作ってくださっていると思った。ただ、こういう穴が開いていると遊んでしまうかもしれないとか言われたら、確かにここに指を入れて遊びそうだという感じはあった。

教育出版も、海外の友達が同じクラスにいるという設定で、様々な国の人たちが仲良くいろいろ学習していくという作りが非常に好感が持てると思った。

光村図書は、折り込みの風景写真とか非常に効果的に使っていて、大きな視点、視野に立っていろいろな研究ができそうな感じがした。ただ紙面構成に変化があるのだが、統一化に欠けるという印象はあった。

様々な工夫がある中で、やはり東京書籍が使いやすいということ、新人の先生にも指導しやすいのではないか。そして学校生活を始めるにあたって１年生、２年生にも親しみやすいのではないかという視点で、私は東京書籍の生活の教科書を選びたいと思う。

山田委員

私も実は大日本図書が１番、五感を刺激する教科書だと思った。最後の 113 ページだと思ったのだが、黒い夜のシートがある。夜は子どもは寝てしまうと思う。夜の景色を見たことがないことはないと思うが、改めてこういうふうに街が真っ暗になってというのがなんとなく客観的にも見られるし、そういう質感とか、平面的でない、ちょっと立体感のある本ということで、副教科だが、すごく教科書として魅力的だと思った。１番センスがよいというの

は全体を通して感じた。

それ以外の内容に関しては本当に、これがよいなと思うとこっちの方のこれがよいといった感じで、そうするとどれがよかったのかという感じになって、結局迷ってばかりいるのだが、使い易さということで言えば、下平委員もおっしゃった東京書籍が総合的には使いやすいのではないかと思っている。

朝比奈委員

私も実は東京書籍なのだが、学校図書があまり文章がなくてこれがかえって先生方にはいろいろ自由に指導ができるという判断も伺ったが、多分、検討委員の先生方は経験豊富な方々なので、そういう高度な視点での判断ではないかという気がする。逆に慣れた先生方ばかりではないということを考えると、やはり東京書籍は版が大きくて、そして大日本図書のちょっとした工夫があるけれども、そういうのに頼らないオーソドックスにというところになるわけだが、見やすい構成になっていると感じたので、私も東京書籍をお薦めしたいと感じる。

齋藤委員

他の委員が話したように、東京書籍を選びたいという思いがある。というのは、１年生からいろいろなカットが出されており、絵や写真のバランスがよくて、それでいてすっきりしている。また学習内容がはっきり示されていて、非常に取りかかりやすいと思った。２年生の方では、「春だ　今日から２年生」ということで、季節に合わせられて作られており、学習に入り込みやすく、また興味を持ちやすいという思いと、自然とマッチングしているので、興味深く体験学習へとつなげられていくのではないかと思った。子どもに興味を持たせて生き生きと学習させるという意味でも、東京書籍がよいと思っている。

ただ学校図書も、学習内容はすっきりしていて分かりやすく、そしてポイントを得ていると思った。児童の心の中に沸くようなタイトル、「こんなところを知っている」とか「たくさん見つけたいね、見つけたよ」とか、「あの人に会いたいな」とか、そういうような子どもらしい取りかかりのよい言葉が表されているということ、理科系と社会系にどちらかというと分けられており、社会と自然との関わり方から考えさせていけるようなものがあるということを感じた。

最後に光村図書だが、写真の色が本物のように生き生きしており、とても感心させられた。生活の時間の中でしたこと、またはやってみたいことをシールに表して、元のページに戻って、復習じゃないけれど、もう一回立ち返るというよさを感じたりもした。それぞれ出版社でよいところがあるのだが、最終的には私も学校図書を推薦したいと思う。

安良岡教育長

東京書籍の「１年生に入って」というところで、先生たちのスタートカリキュラムというのを大切していると思った。１年生に入って小学校でどんなスタートをしていったら子どもたちが学校生活に上手く慣れて、生活できるのかというところで、スタートカリキュラムとしての資料としては、東京書籍の最初のところが本当に充実していて、子どもと一緒に先生方も考えることができると思った。やはり１・２年生の担任は、ベテランの先生も中にはい

るのだが、新採用の先生はなかなか１・２年生の担任にはならず、少し学校に慣れてきた先生が多いというところでは、やはり東京書籍のような細かい説明のある方が、担任の先生としては取り組みやすいのではないかと思った。

学校図書も写真が多い中で、子どもたちが考える部分というのはたくさんあって、子どもの発想を豊かにできるのだが、やはり若い先生、経験の少ない先生たちにとってはいろいろ細かいところもあった方が分かりやすいのではないかということを感じているので、検討委員会では学校図書が◎(二重丸)であったが、私も東京書籍を選定していきたいと考えている。

齋藤委員

学校図書のよさというのも十分承知しているのだが、写真の色の濃さとかいろいろ考え、最終的には東京書籍の明るい写真、子どもに寄り添った、よりよい生活に向けての思いや願いを作っていくというための豊かな学びができるというところで、私も東京書籍を推したいと思う。

安良岡教育長

ということで、東京書籍ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは皆さんのご意見が東京書籍にまとまったので、生活については東京書籍を選定することとする。では次に音楽について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

それでは音楽について説明する。資料の 10 ページを参照いただきたい。検討委員会で２者の見本本を検討した結果、教育出版がより鎌倉の子どもたちにふさわしいと推薦された。それではまず、教育出版について報告する。器楽合奏は取り組みやすい難易度のアレンジがなされており、楽しみながら主体的に学べると共に達成感が得られやすい内容になっている。また題材名、音楽のもと、新出事項などの掲載のパターンが統一されていて、児童にとって分かりやすく工夫されていると共に、指導者にとっても指導のポイントが明確になっている。

続いて教育芸術社について報告する。「歌い継ごう日本の歌」では、日本語の歌詞の豊かさなど児童に伝えたい歌唱教材が複数使われている。

（質問・意見）

朝比奈委員

前に申し上げたかもしれないが、こう見えても合唱団にいたことがあるので、一応音楽に親しんだ立場として拝見した。もちろん２者のどちらかというところで甲乙つけ難いものを

感じるのだが、いずれも日本の伝統的な邦楽も取り上げているし、いわゆる昔から親しんでいる歌も紹介されている。文科省唱歌的なものとか、全部歌えと言えば歌えるようなものばかりなのだが、開いた時に楽譜が見やすいのが教育出版だと思った。教育芸術社もよいが、イラストが余計に上のほうにあり、せっかくのページが小さくなっているような気がして、そういうことを基準にしてよいかは分からないが、明らかに楽譜は見やすいほうが、音を追うにしても、歌詞を読むにしても使いやすいと感じる。よって教育出版を選びたいと思う。

齋藤委員

最初に教育出版だが、ページをめくっていくと曲がいくつか出て来るのだが、五線に書かれている。そうすると子どもたちは低学年ながらでも、視覚的に音を捉えることができる。２年生では、基礎的な力をつけることが簡単にできるのではないかと感じた。音楽に合わせて体を動かそうとか、わらべうた遊び、お花になって遊ぼうとか、子どもの心に寄り添った表現で、子どもを心から楽しませるようなことをしていると感じた。そういうことで活動が主体的に進んでいく、また心から楽しむことができるのではないかということを感じた。また、オーケストラの部分がでてくるのだが、教育出版は配置の構造がとても分かりやすく載っていると思う。こうやってオーケストラの響きを楽しんでいくものだということをどことなく感じ、ここに鑑賞教材が入ってくるとますます子どもの気持ちは音楽のほうに向いていくと、そういうよさを感じた。

教育芸術社は､器楽合奏をとても重視していて､歌を関連させて曲の流れを感じ取ったり、表現したりしやすい曲を選んで載せているということを感じた。そしてオーケストラの主な楽器は教育出版にはないが、教育芸術社は吹いている、弾いているそんな写真でよく分かるように工夫されていた。あとキャラクターが出てきたりするのだが、サポートとして知識と理解を深めるように工夫されていた。

どちらもとてもよい部分もあるのだが、やはり教育出版を推薦したいと思っている。

下平委員

私は教育出版を最終的に選んだ。私が決め手にしたのは、１年生から６年生まで全て英語の歌を取りあげている。１年生できらきらぼしに始まって、６年生にはオリンピック賛歌まで歌えるようになっている。そういう意味で、歌いながら英語に親しむというのは、これからの外国語教育の導入につながるしすごくよいのではないかと思った。１・２年生は小さめのサイズになっている。移動したりすることも多いだろうから、その点も工夫していると思った。歌の数が断然多い。そして透明シートがところどころに使われているのだが、これが実に効果的で、透明シートをめくると音符が無くなっていてそこに音符が入っていたりの工夫が入っていたりもした。リズムを感じる、身体を動かす、鑑賞をする、歌う、それらが非常にバランスよく組み合わされている印象があった。後は音楽に絡む方としてミュージカルの新妻聖子さんだとか、５年では野村萬斎さんが取り上げられていたし、これは狂言を見に行くということにもつながるような気がする。ピアノでは辻井さんが取り上げられていたりということで、どういうきっかけで自分が音楽世界にいざなわれたかということが読み物としても非常に好奇心をそそる作りになっていると感じた。

以上のような点で、教育出版の教科書を選びたいと思ったところである。

山田委員

教育出版の教科書の方が、ページをめくった時に明るい感じがするので見やすいと思った。透明シートをオーケストラの風景にかぶせると、どの部分にどの楽器の集団があるというのが分かって、今度自分が生で見た時にこれだと見つけられるのではないかと思った。曲の数も多いし、また鑑賞教育に教育出版のほうが力を入れているように感じた。この後の図工の時にも少しお話しするが、日本で特に小学校の教育は、鑑賞よりも自分が実際に楽しむことに主眼が置かれていて、それはそれでとても大事なことではあるのだが、やはり一流のものに触れるという機会が少なすぎるところがあり、これは CD を併用してみんなで鑑賞するという時間を設けられるように作られていると思うし、そういう意味ではビゼーのアルルの女とか、サウンドオブミュージック、シューベルトのますとかその辺の名曲をきちんと聴けるような構成にもなっていると思うので私も教育出版を選びたいと思う。

安良岡教育長

私もこの報告書にあるように、教育出版は器楽合奏の達成感が得られる内容となっている。教育芸術社の方は日本の歌とか、日本の歌詞の豊かさが表されており、それぞれ特徴がある教科書作りをされていると思った。

ただ３年生の桜の歌があるのだが、教育出版は折り込みの全ページで桜のところに歌詞とか文字が入ってなくて、桜が映っているのだが、教育芸術社の方は残念なことに、せっかく桜があるところに文字などいろいろ入っていて、こういうところは子どもたちが観た時に、イメージとして凄いインパクトが大きいというふうに思うので、教育出版の方を私も選んでいきたいと思っている。

そうすると委員の意見が出揃ったので教育出版ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは音楽の教科書については、教育出版を選定する。次に図画工作について指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

それでは図工について説明する。資料の 11 ページを参照いただきたい。検討委員会で２者の見本本を検討した結果、開隆堂がより鎌倉の子どもたちにふさわしいと推薦された。それではまず、開隆堂について報告する。学習の三つのめあてが児童に問いかける形で分かりやすく示され、中心となるめあては文字が強調されており、児童が目的をもって主体的に取り組めるように工夫されている。また他教科と関連のある学習ができるページには､「あわせて学ぼう」マークと共に、教科名を記載し教科横断的な学習の手立てとなるように工夫されている。

続いて日本文教出版について報告する。「きをつけようマーク」と「かたづけマーク」が題材ごとに示されており、児童が安全に活動が行うことができるようになっている。

（質問・意見）

山田委員

先日、日本の美術教育について、アート界の専門家の方とお話をした。そこでお聞きしたのは、日本がアートの世界で遅れを取っていたり、日本のアーティストの価値というのが世界でも評価が高まっていないという傾向があるそうで、その原因がどこにあるかというと、一つには教育にあるのではないかということが挙がっていた。欧米と比較して大きく違うところが、欧米では鑑賞教育に非常に力を入れているのに対して、日本では幼い頃から自分が作るとか、自分が楽しむ、先程の音楽もそうなのだが、どちらかというと一流のものに触れるというよりは身近なものでも自分が作って楽しむ方向に力が入っているように感じる。海外の教育では、もちろん絵を描いたり工作をしたりするのだが、この教科書の中に限らず美術館に足を運んだり、音楽会に学校で行ったりと、そういった生で一流の作品や機会に触れるということにとても力を入れている。私はウィーンにいたので非常にそれが盛んだったのだが、日本に決してそれが無いわけではない。そういう機会はたくさんあるし、ラジオなどを聴くと、いろいろなイベント、サマーフェスティバルとかでクラシックコンサートもいろいろやっているし、そういった機会を学校でも積極的に取り入れていただいて、一流のものに触れた上で、それを自分の中でどういうふうに咀嚼して、自分の作品、クリエイティビティにつなげていくかというところを目指して欲しいと思う。そういう点ではどちらの教科書も楽しくワクワク制作するという意味ではよいのだが、鑑賞の要素が足りないとは感じている。

その中でも開隆堂が１・２年生から「小さな美術館」、「みんなのギャラリー」というコーナーがあり、そして５・６年生では鑑賞の視点が少し多めに入っていると思った。

日本文教出版は３・４年生でようやく鑑賞コーナーが出てくるように私は見受けた。５・６年生で、「美術館に行こう」は美術館の他にも、ギャラリートークとかワークショップなどいろいろな形態のアート作品の楽しみ方があるのだということが載せられており、よいと思った。だから工作するという観点からは大きな差は私には感じられなかったのだが、巻末にあるハサミやカッターナイフ、金槌の使い方といった技術的な部分は日本文教出版の方が少し見やすいという印象も感じた。そうしたことをトータルで考えると、鑑賞教育が充実している開隆堂を選ばせていただきたいと思う。

下平委員

全体的にとおして見た時に、どちらも昔の美術の教科書よりも盛りだくさんで、どっちもゴチャゴチャしている印象を受けた。山田委員も話していたが、やはりこれから働き方改革になると、日本人の働き方というのを見直してむしろ余った時間をどう心豊かに過ごすかということが問われてくるわけで、美術、音楽ももちろんだか、そういう芸術系を楽しむ、そこに心を遊ばせる力というのはすごく大切だと思う。

そういう意味でも例えば６年の開隆堂の教科書には「竜を見る」というようなところが非常に観賞的な視点で好奇心をそそるような作りがあって、風神雷神の５・６年の上にも出てくるし、そういった点がよいと感じた。

日本文教出版もSDGsが取り上げられているという報告もあり、今鎌倉はSDGsの未来都市でもあるし、非常によいと思って、その部分を少し大事に見たのだが、もう少し詳しく触れていてくれれば迷ったかと思うのだが、確かに観賞的な視点はゲルニカとかは印象的であったが、開隆堂に比べると少ないように感じた。そういう意味で、図画工作に関しては開隆堂を選びたいと感じる。

齋藤委員

楽しかったことやびっくりしたこと、嬉しかったこと、そのようなことを身近な材料を使ってその題材の目当てに合わせて、想像力を高めながら作っていけるという、それが楽しい図画工作というものではないかと思っている。そうすると、自分でどれを使えるか、何をすればよいか、という気持ちや目を持つようになる。そして自分の想いをしっかりと表現する、また豊かに描き表せるというようなことができる。自由にのびのびと表現活動をさせること、それが子どもを育てる第一歩と私は思っている。そういうことを考えていくと、同じ一つのことがあってもやはり開隆堂の方がそういう想い、または行動がさせられるのではないかと思った。そして絵が大きく、写真も大きく見やすいものが出ており、学びの資料なども詳しく説明されている。それでいて子どもの想いを大切に扱っているということで、開隆堂がよいと思っている。

日本文教出版も見方を変えていけば、写真だとか絵とかそういうものはよくできているのだが、使う色等も選ぶこと、そして児童がどうやっていこうかと取り組むようにはさせているのだが、子どもがどう取り組み、どれだけ解放されながら一つの作品を作っていけるかということを考えていきたいと思う。最終的にはそういう点からも、開隆堂を選びたいと思っている。

朝比奈委員

私も開隆堂を推したいと思う。片方のよいところを言うと、反対の方は劣るのかというとそういうわけではもちろんないので、どちらもよくできているのだが、両方比べてみると開隆堂の方が中の構成が非常に整っている。日本文教出版の方がいろいろ盛りだくさんだが、なんとなくごちゃっとした感じがする。それだけで選ぶのかと言われるとそれまでなのだが、どちらがよいかと尋ねられたら、やはり鎌倉の子どもたちにはこの整った、見やすい教科書で学んでほしいと私は感じたので、開隆堂を選びたいと思う。

安良岡教育長

私もこの報告書にあるように、開隆堂は最初に学習の目当てというのが三つあり、それが子どもたちに問いかけるような内容になっていると思う。その部分というのは、やはり子ども目線で考えて、そして子どもが今後、何に取り組むのかということを考えるきっかけになってくると思っている。あと、開隆堂の方は学びの資料ということで、巻末にいろいろな道具の使い方が載っているので、こういうところは授業で使いやすいだろうと思った。

日本文教出版の方も、内容が多様で、安全な作業と道具の使い方という点については、丁寧に記載してあるので、どちらの教科書も差はないのではないか思っている。また身近な教材の活用と創意工夫というところがあって、そういう点では子どもたちが共同制作につなげ

ることも可能だと思うところである。
全体的に見て、私も開隆堂の教科書を採択できればと考えている。そうすると、委員からの意見が出揃ったので、まとめていくことにする。図画工作については開隆堂ということになると思うがよいか。

（異議なし）

安良岡教育長
では図画工作は開隆堂を選定することとする。次に家庭について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事
それでは家庭科について説明する。資料は 12 ページを参照いただきたい。検討委員会では２者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいとされ、１番目の推薦とした。まずは東京書籍についてだが、日本の伝統コーナーでは日本の伝統的な食品や、日本手ぬぐい、もったいない精神など、伝統と文化を尊重する態度を養える例をコラム的に強調して紹介されている。また各単元名を児童の意識レベルに落とし込んだ言葉で表現されている。児童が学習の内容を受け止め、学習に必然性を持って前向きに学習活動に取り組めるよう考えられている。
続いて開隆堂だが、22、23 ページに掲載している資料について、子どもにとっても難しく感じる玉結びの解説についてはとても分かりやすくなっている。また単元の最初に単元を通して学ぶめあてが全て示されており、単元の最初のページを見るだけで児童が見通しを持って学習に取り組むことができる。

（質問・意見）

齋藤委員
東京書籍の方だが、情報やコラムが多く、児童が興味関心を持って取り組んでいくことができる。また学習内容の説明が段階的に示されていて、児童にも学習の流れが掴みやすくなっている。段階的で、「計画を立てこう作っていこう」、「でき上がった物をこうやって使っていこう」というような、そういった段階が子どもにも分かるようになっており、見通しを立てることができるということがよいところだと思う。ミシンの使い方の説明がとても丁寧にできている。普通は実物があって、子どもと一緒にやっていくが、実はこういうふうになっているのだという図式での説明がしやすく、子どもも理解しやすくなっているということを感じた。また巻末にある実習技能の説明、それらが写真等にも丁寧に大きく分かりやすく出て来ていて、苦手な児童も納得できる、分かりやすい表し方ができていると思う。
開隆堂の方は、学習内容がはっきり提示されていて分かりやすい。説明等も理解しやすく表されている。教科書の情報量もなかなか入っていて、どちらかと言うと、量からすると東京書籍の方が細かく、丁寧と言えば丁寧なのだが、いっぱい示されている。開隆堂の方は、説明はされているのだが、大きく捉えられているということで、ある意味では捉え方によれ

ばそれを自分たちで考えて工夫して理解してやっていくというようなよさもあるのだが、そこにこの二つの会社の違いがあった。

調理等の手順だが、適量で児童が考え工夫をすることができるような、気付き等も引き出しながらやっていけるのが開隆堂の教科書であった。児童が主体的に学べるように配慮されているということも感じたが、最終的にはとても丁寧でいて、視覚に訴える、そして興味を持たせることができるという点から、東京書籍を選びたいと思っている。

朝比奈委員

この２者からの選択なのだが、両方比べると、似ているところがたくさんあったが、東京書籍を推したいと思う。野菜の切り方とか、右利きと左利きの体の向き方のところも大きくて分かりやすいし、季節によって暮らしの仕方が変わるというような記事の中で、開隆堂は葦簀と簾の話が出てくるのだが、東京書籍は日本間は障子戸が夏は夏らしく簾戸に変わるというような、こういうことなどは、たぶん葦簀は見たことがあっても、こういう建具というのはなかなか気が付かないでいる、知らない子も多いと思うので、伝統的な様子も紹介していただけてさらによいのではないかと思った。基本的に似たような構成と言っても、構成のセンスというところはこの東京書籍に感じたので、私は東京書籍を推薦したいと思う。

下平委員

まずは教科書のタイトルが、開隆堂は「わたしたちの家庭科」、それに対して東京書籍は「新しい家庭」というタイトルとなっている。新しいというところが決め手なのかと思うのだが、そう思いながら読み進めると、やはり現代社会、これから生きる未来に向けての新しい項目みたいなものがかなり工夫されているように私は感じた。働かない若者も増えているなかで、プロに聞く、キャリア教育の視点から仕事にどのように取り組んで好奇心を膨らましていくのかというのが、分かりやすく、たくさん取り上げられているのは東京書籍であった。ものとお金と使い方に関してのページは非常に分かりやすく、ポイントが明示されてまとめられていたと思う。どちらの教科書も生活時間のマネジメントという視点は入っているのだが、見つめてみよう生活時間ということで、これから自分の時間を活かして活用するという視点が大切に取り上げていた。これから猛暑の夏だが、夏を涼しくさわやかに過ごす秘訣だとか、そういう意味で新しいというところが割と工夫されているように私は感じた。委員会の報告にもあったが、逆に日本の伝統文化を学ぶ、伝統コーナーでは衣替えの大事さとかおもてなしの心、もったいない文化などやはり日本に私たちが家庭生活の中で大事にしてきたことが取り上げられていて、ここも興味を惹かれる部分だったと感じた。以上のような視点で東京書籍を選びたいと思う。

山田委員

私も東京書籍を選んだが、開隆堂のよい点を一つ挙げると、学校で習ったことを家庭やクラスの中、学校の中で実際にいかそうという試みが充実しているように感じた。地域のおやつを作ってみるとか、家族のために自分が家事の役割を果した成果をちゃんと測ってみるとか、そういう実践的なところが良かった。教科書で習った授業で、それを自分がどういうふうに社会で役立っているのか、家庭という小さな社会の中で、自分がなにか役割を担ってい

るのかというところにつなげないと、また自己満足の作品作りで終わってしまうと思うので、家庭科はやはり自分が社会の一員として役に立つスキルを身につけていくものとして、達成感が感じられるような授業作りにしていただければと思う。そういうことで、私も東京書籍を選ばせていただく。

安良岡教育長

教科書の作りを見ていくと、開隆堂は学習の目当てがあって見つけて気づく、分かる、できる、いかす、深めるとなっている。東京書籍はステップ１、２、３というように、それぞれ学習の流れを分かりやすく説明しながら作っていると思っている。やはり小学校５・６年生になってくると、これから自立していく、いろいろな準備をしていかなければいけないという中で、自分でできることを増やしていこうとか、あるいは家の中のことでできることは自分から進んで手伝っていくとか、そういうことが必要になってくるので、どちらの教科書も自分の周りの生活を見て何かできることはあるのか、どんなふうに取り組むのかといったことが丁寧に書いてあると思った。その中で東京書籍の方がA4版で､開隆堂と比べると上の方に余裕があり、見やすいと思う。写真を見比べていくと、東京書籍の方が美味しそうに見える部分が多い。開隆堂は図や写真などがたくさん使われている。やはりそういう点で、作業の流れとなどを子どもたちが理解するには、やはり東京書籍が私も優れていると判断したので、東京書籍を家庭科としては推薦していきたいと思う。

以上で家庭科については意見が出揃ったので、まとめていくと東京書籍ということで良いか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは家庭科は東京書籍を選定することとする。では次に最後になるが保健について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

保健について説明する。資料は 13 ページを参照いただきたい。検討委員会で５者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、大日本図書、学研の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいとされた。また３者の中でも特に学研へのご意見が多く、検討委員会として１番の推薦とした。

まずは東京書籍についてだが､各単元が｢ステップ１　気付く、見つける｣｢ステップ２　調べる、解決する｣「ステップ３　深める、伝える」「ステップ４　まとめる、いかす」というステップ方式になっているので、問題解決の過程が分かりやすく見通しを持って学習ができるようになっている。

続いて大日本図書についてだが、単元の始めに「学習ゲーム」を掲載し、ゲームに登場する単元内容をキャラクターに演じさせることで意欲的に取り組みながら学習の課題に気付き、スムーズに単元に導入できるようになっている。

続いて学研についてだが､22 ページから始まる交通事故や怪我の防止での資料ではいろい

ろな事故を想定したり、28 ページにあるように、安全を守るための緊急の警報資料が用意されたりと、安全防災教育へとつなげることができる。また３・４年や、５・６年などに設けられている科学の目では、科学的な視点からの理解に結び付けられるように、顕微鏡での拡大写真やレントゲン写真など見えないものを見える化した資料を掲載することで、児童の興味関心を高めながら学習に取り組むことができる工夫がある。

下平委員

まず東京書籍は、子どもの写真が表紙に使われていてインパクトがあった。検討委員会の報告にもあったと思うが、ステップ１、２、３、４の流れが非常に分かりやすく丁寧に作られていると思う。写真とかイラストのバランスがよいということ。チェック表とか対比表などが上手に使われていると思う。小学校５・６年にもなると独自にそれぞれ不安を抱えたりとか、悩みを持ったりということがあるのだが、それへの対処法が非常に丁寧に取り扱われていると思った。なかなか上手く作っていただいていると感じたところである。

大日本図書はサイズが小さめであった。表紙のイラストも生き生きと面白かった。全体的にイラストが非常に見やすくて、紙面構成も大変すっきりとしていてポイントが非常に明確でまとめやすい、捉えやすい作りになっていると感じた。

文教社は、写真やイラストが非常に鮮やかであったし、宣伝しようというコーナーはなかなか面白かったと思う。

光文書院は「私と健康」という、最初のページが非常に印象に残った。オリンピック、パラリンピックに出場するような選手たちが大勢取り上げられていた。これは非常に興味を惹かれる内容なのだが、来年はよいのだが、これは４年間使うので、そう考えるとこのページがあまり多すぎるのはどうかという不安はあった。やはり悩み、不安という対処法が他の会社と比べると少しあっさりすぎているかと思った。私から見るとかなり物足りない感じがした。

そして学研については、イラストの子どもの笑顔が非常に印象的で、全体的に清潔感が感じられる紙面構成になっていたと思う。ページの使い方が非常に上手に使われていることによって、読み易さとか見易さが優れていた。また二次成長の記述が非常に丁寧に取り上げているのと、あとは心の説明、不安と悩みの対処法だけではなく、心に関する説明が非常に説得力ある分かりやすい、自分でもチェックできるような内容になっていた。さらには保健医学分野のノーベル候補受賞者の一覧表があったりして、そういう分野でも活躍している人たちがいるのだということも、子どもたちにも知ってもらいたいという思いがして、読み進めた。そのような視点から私は学研の教科書を選びたいと思う。

山田委員

保健というのは理科でも道徳でも学べない、あるいはそこで漏れているものを中心に扱っていただければよいと思う。具体的には思春期の性教育だとか、心身の健康とか、病気から身を守るにはどうしたら良いかという自分で生きていく、自立していくのに必要な観点を網羅しているとよいと思う。それはどこもしているのだが、先程下平委員もおっしゃたように、深さに多少違いがあると思う。

それ以前に今日ここでこうしてずっと座ってたくさんの教科書を見てきてふと思うのが、

各教科書みんなそれをよりよいものにしようとして、すごく盛りたくさんでカラフルにいろいろな写真が多く盛り込まれているのだが、多分私たちが今日過ごした一日というのは、子どもたちの学校での１日に少し近いものがあるのではないかと思う。これだけのたくさんの教科書を読んで、体育とか音楽とか実技的な部分は今日は無いが、ずっと座ってちょっとした休憩に席を外してまた教科書を見てという、本当に疲れるのだろうと思う。言いたいことはどれもカラフル過ぎる、絵や写真が多すぎて、集中するのがすごく難しい作りになっているのではないかと、いまさら言っても教科書はもう上がって来ているが、１者、１者がすごくいろいろな思いをもって、よりよくするためにしてくれているのだが、特に私たちが白黒に慣れているというところもあるのかもしれないが、教科書以外からも学ぶ時間も重要だし、そうやって切り替えをすることによって、教科書に書いてある重要なことに、集中ができたりということがあるので、保健は特に実体験的な学びと教科書から学ぶことを本当にバランスよくしていく必要があると思って見ていた。

最終的にどの教科書かと言えば、学研の教科書が活用しやすいのではないかと思っている。

齋藤委員

今のお話のように、どの会社も非常に工夫をされていると思った。特に保健に関しては、子どもの成長に合わせた形を取らなくてはならないし、私たちも十分に理解していかなければいけない部分だと思う。そういうことから見ていくと、東京書籍はしっかりと説明も多いのだが、記入型があって、記入するという学習の進め方がはっきりしていると思った。ステップが四段階あって、それで学習の進め方がはっきりしている。そのために見通しをもって学習に取り組めるという良さがあり、課題を見つけることもできるというプラスがある。あと心の健康、怪我とか事故防止、防犯とかといういろいろな意味を考えて、今日的な課題について丁寧に扱われていて、内容も充実しているというのを感じた。

大日本図書に関しては、児童の生きる力を育むことを狙っているというか、学習の流れをひと目で分かるようになっていて、学びやすく、学んだことをより深めることができるようになっていると思った。どちらもワークシートとかが入って、書き込みができるようになっているのだが、あまり多いものはいらないと思った。やはり心を育てたりポイントを学習するという意味で考えていきたいというところがあった。

文教社についても、チェックして振り返ってみよう、考えてみよう、やってみようという新しい自分にレベルアップしようという、非常に意欲的に取り組ませるような工夫が取られていて、これもよい部分があると感じた。

光文書院は、全体的にまとまっている印象を受けた。内容が多くて、もちろん情報量も多くて、少し量が多いと感じた。見にくいように感じたのだが、主体的に課題を解決するような取り組みが入っており、その良さも感じている。

また学研については、使う、考えて調べる、まとめる、深めるというようなことがでてきており、資料がとても見やすく、書き込み量も適当で、文量もよいということで、ただ文字が小さいと思うのだが、学習のことに関してはとてもよい方法だと思っている。見方、考え方を示してあり、科学の目とか、関連をすることに関して、より発展させるということを考えている教科書だと思った。興味関心を高めて、課題を捉えて、自分から詳しく調べたり、

たずねたり、学んでいく形が取れるものなのだということも感じた。もう一つは、心の発達の面をとても分かりやすく大事に扱っている。ちょうどこの心の問題、体の問題というのは、大事に扱っていかなければならない。そういう部分からも学研を、私は推薦したいと思っている。

朝比奈委員

私は学研を推したいと思う。私が見て気になったのは、大日本図書は割とあっさりしているように感じる。情報をあえて少なくしているという感じがするのだが、その分先生が授業で話しをすればよいのかも知れないが、せっかくだから、もう少し読み応えがあってよいのかと思った。そしてやはり学研のほうが綺麗に整っていて、見やすいと思う。私がこの中で気に入ったと言うのは変だが、５・６年生の最初の方のページを見ると、呼吸法のことなどが書いてある。これがまさに、座禅の呼吸に近いようなことを説明してくれている。大日本図書では呼吸の話は無く、東京書籍にはあるのだが、少し違う。私は学研の方が絵も分かりやすいと思う。そのあとの、例えばたばこを吸いすぎたらこうなってしまうという記事もより分かりやすく書かれているので、やはり分かり易さ、イラストの巧みさから考えて、学研を推薦したいと思う。

安良岡教育長

東京書籍はステップが１、２、３、４というふうに気付く、調べる、深める、まとめる、いかすというような流れになっており、学研は、つかむ、考える、調べる、まとめる、深めるというような流れで、どちらの教科書も、流れが統一されており、子どもたちには学習していく準備がしやすい内容になっていると思った。特に４年生くらいから５年生にかけては、体の発育と心の発育があるので、そういう部分を子どもたちがどう学習していくか、というところでは、体の発達のところなどもやさしい絵で書いてあるところが、子どもたちにとっても学習しやすいと思った。そういう点で、私も学研の教科書の方が、子どもたちの学習にはより良いのではないかと思っている。

また５年生のところでは、心の発達ということで、悩みの対象例が多く記載されている。５年生くらいになってくると、様々なことで悩むことが多くなってくるかと思う。自分の生活の中で振りかえった時に活かせる、というような点を考えると、学研を推薦していきたいと思っている。

以上、委員の意見をまとめていくと、保健については学研ということでよいか。

（異議なし）

安良岡教育長

それでは保健については学研を選定することとしたいと思う。

以上で全種目について協議を終了する。ただいまの協議結果をもとにして、このあと事務局で資料作成し、議案第 17 号の審議に移りたいと思う。資料作成のため、これから休憩を 15 分ほど取りたいと思う。再開は 15 時からとさせていただくので、よろしくお願いする。それでは一旦、休憩とする。

（休　　憩）

２　議案第 17 号　令和２年度（2020 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

安良岡教育長

それでは教育委員会８月臨時会を再開する。日程２議案第 17 号「令和２年度（2020 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」を議題とする。議案の説明についてお願いする。

教育指導課長

日程２議案第 17 号「令和２年度（2020 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」その内容を説明する。議案集は２ページから４ページを参照いただきたい。

令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書については、先程種目ごとに選定していただいた。それを一覧表にまとめたお手元の「令和２年度（2020 年度）使用小学校教科用図書一覧表（案)」11 教科 13 種目のとおり採択するものとして提案するものである。

また、４月の教育委員会で、「平成 32 年度（2020 年度）使用教科用図書の採択方針」を議決いただいた中で、中学校教科用図書については平成 30 年度に採択した教科用図書と同一のものを採択することとなっていることから、議案集４ページ、「令和２年度（2020 年度）使用中学校教科用図書一覧表（案)」のとおり提案するものである。

安良岡教育長

ただいまの事務局からの説明に対するご質疑、または原案に対するご意見があればお願いする。

（質問・意見）

特になし。

（採決の結果、議案第 17 号は原案どおり可決された）

安良岡教育長

その他、委員からあったらお願いする。

下平委員

毎回、教科書採択の度に申し上げていることなのだが、本当にこれがスタートラインで、人間というのは、大人もそうなのだが、学ばねばならない、みたいな義務感みたいなもので勉強すると、苦痛になってしまって心が動かなくなってしまう。やはり是非、私たちが本当に心をこめて選んだ教科書をいかしていただいて、子どもたちがわくわくした心で、未来に

夢を抱いて、学びを深められるように、先生方、いつも工夫して下さっているのは分かっているのだが、一層先生方も心を動かして、授業に臨んでいただきたいと思うので、是非何か機会があったら、その思いを伝えていただきたい。よろしくお願いする。

山田委員

私は英語についてなのだが、先程英語の採択の時にも申し上げたが、ここにいる世代はみんな学校で習った英語が役に立たなくて寂しい思いをした世代だと思う。それが少しでもよくなるように願っているし、そういう意味でも来年は中学校の採択にもなるが、ぜひネイティブの先生の視点で教科書を見ていただくということを、どこかの段階でしていただいて、そういった感想も私共も参考にさせていただきながら、しっかり選びたいと思う。

齋藤委員

今日一日、朝からずっと、後ろでちゃんと教科書を出して下さったりとか、ご配慮いただいたことに感謝申し上げる。ここへ来るまでに私たちも一生懸命、毎晩毎晩、毎日毎日、教科書を見てきたが、事務局の皆さんのおかげでここまでやってこられたと思う。感謝申し上げると同時に、この選ばれた教科書が子どもたちのために、鎌倉の指導をする先生方のために、十分役に立ってくれることを祈っている。

朝比奈委員

今、齋藤委員が話したように、それぞれの学校にお伺いし、先生方にお会いすると、いろいろな先生がいらっしゃって、てきぱきとなさっている先生もあれば、ちょっとたまたまその時、お疲れだったのかという、辛そうにお見えになる先生もいたり、給食の時間などをみると、ぼーっとしている方もお見受けしたり、いろいろな先生方がこの私どもが選んだ教科書を教材として、子どもたちの指導をしてくださる。それが「こんな教科書を選んで」ということにならないとよいなと思った。「これを選んでくれて、僕は助かった」というふうに思ってくださったら、すごく嬉しいと思う。

安良岡教育長

次は、この教科書を使って、先生方が学校でどう子どもたちに指導するか、鎌倉の子どもたちのためにどのような授業展開がよいのかの検討を、指導主事にまたお願いしなければいけないと思うので、新たな仕事がまた始まるが、よろしくお願いしたいと思う。

それでは以上で本日の日程は全て終了した。これをもって８月臨時会を閉会する。